

郷土教育推進研究報告書

令和3年度（2021年度）

「郷土日野」指導事例

～ 第16集 ～



日野市立教育センター

郷土教育推進研究委員会

目次

ごあいさつ	〈正留久巳；教育センター 所長〉・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
	〈長崎将幸；郷土教育推進研究委員会委員長、平山小学校 校長〉・・・・・・・・	1
I	研究の構想・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
1	研究の主題	2
2	研究主題に迫る授業像	2
II	研究組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
III	研究経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
IV	実践事例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4～42
1	Aグループの研究「主体的な学びから郷土にふれ、郷土を愛する幼児・児童の育成」・・	4～10
	「畑のお米と田んぼのお米を育てよう」「日野市で生まれた林丈太郎の平山おかぼ発見の努力」	
	「日野市の農業を調べよう」、成果と課題、学習指導案	
2	Bグループの研究「郷土への愛着を深める ～身近な地域をもっと知ろう～」・・	11～18
	「日野市食べ物博士になろう！～日野市の特産物を調べよう～」「南平の果てまでイッテQ	
	～地域のとっておきを見付け伝えよう～」「心の動きを言葉にして、詩を書こう。～感動を言	
	葉に～」「多摩川とともに生きる～多摩川はかせになろう～」「生き物大作戦～ヤゴ救出大作	
	戦～」、成果と課題、学習指導案	
3	Cグループの研究「日野市の郷土関係機関や人材との連携を通して」・・	19～26
	「日野市のいいところ見つけ」「パンフレットを読もう」「受け継がれる祭り～府中くらやみ	
	祭～」、成果と課題、学習指導案	
4	Dグループの研究「郷土への関心、理解を深め、郷土への愛着を育む教材の開発を目指して	
	～日野の新たな魅力発見～」・・	27～42
	「明治の新しい国づくり」、成果と課題、学習指導案、児童向け資料	
V	1課2館との連携・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	43
VI	研究の成果と今後の課題・・・・・・・・・・・・・・・・	43
VII	郷土教育の推進・・・・・・・・・・・・・・・・	44～46
1	若手教員(1年次)育成研修の支援・・・・・・・・	44
2	平山陸稲栽培・・・・・・・・	44
3	図書館の活動・・・・・・・・	45～46
VIII	夏季研修会講師の言葉・・・・・・・・	47～51
	日野宿フィールドワークから「教材化の視点や方法を学ぶ」 小杉博司（郷土教育推進研究委員会顧問）	
	・・・・・・・・	47～48
	フィールドワークと夏季研修会に参加して 清野利明（前郷土教育コーディネーター）	
	・・・・・・・・	49
	「国登録有形文化財 旧農林省蚕糸試験場日野桑園第一蚕室」について 秦 哲子（ふるさと文化財課学芸員）	
	・・・・・・・・	50～51
編集後記	・・・・・・・・・・・・・・・・	52

～ ご あ い さ つ ～

第 16 集の発刊にあたって

日野市立教育センター所長 正 留 久 巳

第3次日野市学校教育基本構想の3年目でもあり、昨年度できなかった分まで取り戻そうと意気込みをもってスタートしましたが、本年度も、コロナ禍により、様々な制約の中、研究を進めなければなりませんでした。しかし、どんな状況であっても、少しずつでも研究を進めようという委員の先生方の熱意がありました。そして、研究主題を「郷土への愛着を深め、地域と共に生きようとする児童の育成」とし、授業を通して実証的に研究を進めていただきました。第3次日野市学校教育基本構想の具現化を見据え、体験的な学習や、探究学習など、考え行動できる児童の育成を目指しました。昨年度に続き、1課2館（ふるさと文化財課、図書館、中央公民館）との連携を進め、一層新しい指導につながりました。2学期は練られた教材と工夫された指導のもと研究授業が実施でき、主題に迫る多くの成果を得ることができました。様々な困難の中、郷土教育推進研究委員会（平山小学校校長 長崎将幸委員長）がとりまとめ編集した『「郷土日野」指導事例集第16集』を発行することとなりました。

最後に、郷土教育推進研究委員会に参加してご努力いただいた現場の先生方はじめ、各委員の皆様、顧問の先生、そして子供たちのために様々な連携をしていただいたふるさと文化財課、図書館、中央公民館に深く感謝申し上げます。

郷土教育推進の歩みを止めないために

郷土教育推進研究委員会委員長
日野市立平山小学校 校長
長 崎 将 幸

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、郷土教育推進研究委員会の研究がスタートしました。今年度は、昨年度に実施できなかった夏季フィールドワーク、研究授業を実施することができました。委員を選出していただいた各小学校、ふるさと文化財課、図書館、中央公民館の皆様、ご指導いただきました顧問の皆様に感謝申し上げます。

郷土教育を推進するためには、まず、地域を知ることが大切です。今年度は感染症対策のため、グループごとにフィールドワークを実施しました。グループで訪問先を決めたことにより、今までよりも目的が明確となり、質問もしやすかったようです。このフィールドワークで地域のことを深く知り、授業づくりに取り組んだグループもありました。研究授業では、感染状況が厳しくなったこともあり、オンラインを活用しながらの指導案検討となりましたが、提案性のある実践を行うことができました。

コロナ禍においても郷土教育推進の歩みを止めずに取り組むことができた1年となりました。今後も郷土教育の推進にお力添えいただけると幸いです。

～郷土教育推進研究～

I 研究の構想

1 研究の主題 「郷土への愛着を高め、地域と共に生きようとする児童の育成」

第3次日野市学校教育基本構想（2019～2023年度）には、

- ・「疑問や驚きから生まれる問いを大切に、自分たちなりの方法で、自分たちなりの答えにたどり着く過程を大切にします。」
- ・「子供たちは、地域で自分を感じ、自分を育て、自分の生き方をつかみ取っていく。」
- ・「子供たちは、ふるさとひのでの活動を土台として、その先の世界へ飛び出していきます。」
- ・「先生や大人は学びの促進者です。問いを深めてくれたり広げてくれたり、いろいろな考え方に合わせてくれます。」

など、郷土教育に深く関わる項目や、教育活動を進めていく上で大事にすべき事柄が示されています。

そこで、郷土教育推進研究委員会（以下、委員会）では、研究主題を「郷土への愛着を高め、地域と共に生きようとする児童の育成」として、郷土教育の進め方を創意工夫し、郷土教育を通して第3次日野市学校教育基本構想に迫ろうと考えました。

2 研究主題に迫る授業像

委員会では、研究主題の内容を皆が共通理解して研究を進めることが大事であると考え、研究主題に迫る授業像を下表のように明らかにし、共有しました。

	郷土への愛着を高める児童	→	地域と共に生きようとする児童
授業で獲得が期待されること	- 郷土の人・こと・ものを知る授業 - 郷土を身近に感じる授業 - 郷土の良さや素晴らしさに感動する授業 - 郷土を誇りに思う授業 - 郷土の大切さ、かけがえのなさを感じる授業 - 郷土の人々とつながる授業 - 郷土に育まれ、郷土の一員である自分を自覚する授業 ※「愛着」・・・心がひかれて、大切にしたいという思い		- 郷土を大切にしようと感じる授業 - 郷土の営みに協力しようと思う授業 - 郷土に貢献しようと思う授業 - 郷土を元気にしよう考える授業 - 郷土を発展させよう考える授業 - 郷土に育まれ、そこで生活している自他を大切にしよう考える授業 - 自己の郷土への思いを発信し、郷土を愛する仲間を増やそう考える授業 - 郷土で培われた自己の個性を生かし、将来他地域や外国においても自己の務めを果たすことができる資質を育む授業
育みたい学習態度	～主体的・対話的で深い学び～ - 自ら課題、自ら解決…探究的に学習する - 人と関わることによって、考えを深めたり、新たな情報を得たり、協力・分担して研究したりする - ものごとを自分との関りでとらえる - 学んだことを通して自己の生き方を考える - 学んだことを発信する		

Ⅱ 研究組織

役員会	教育センター所長	正留 久巳
	委員長	長崎 将幸（平山小学校長）
	副委員長	秋田 克己（旭が丘小学校副校長）
	指導主事	加藤 信秀（日野市教育委員会学校課）
	郷土教育コーディネーター	中村 康成（教育センター）
	郷土教育担当	尾形 斉（教育センター）

Aグループ	世話人	平石 香奈子（第四幼稚園）
		大平 晴（滝合小学校）
		若林 裕登（日野第七小学校）
		白川 未来（ふるさと文化財課）
	顧問	倉田 満（元渋谷区立常盤松小学校長）

Bグループ	世話人	朝比奈 雅也（潤徳小学校）
		小高 圭太（南平小学校）
		井戸川 正弘（旭が丘小学校）
		永山 和（仲田小学校）
		原田 真紀子（七生緑小学校）
		佐野 綾香（中央図書館）
	顧問	吉野 美智子（元百草台小学校長）

Cグループ	世話人	柳井 大輔（日野第一小学校）
		米原 和哉（日野第三小学校）
		白須 隆（日野第五小学校）
		真野 尚人（日野第八小学校）
		高橋 秀之（ふるさと文化財課）
	顧問	小杉 博司（元日野第一小学校長）

Dグループ		佐藤 隆寛（豊田小学校）
		大竹 弘通（日野第四小学校）
		澤久保 敦（平山小学校）
		峰尾 恭子（東光寺小学校）
	世話人	白石 誠（夢が丘小学校）
		長谷川 正（中央公民館）
	顧問	高橋 清吾（日野第一中学校統括校長）

Ⅲ 研究経過

月・日・曜	活 動 内 容	月・日・曜	活 動 内 容
5・18・火	委嘱状伝達、顔合わせ	10・26・火	A・Cグループ研究授業
6・15・火	フィールドワークコース決め	11・30・火	B・Dグループ研究授業
7・28・水	夏季研修、日野宿フィールドワーク	12月	研究の成果と課題個人案作成
9月	オンライン指導案検討（コロナ対策）	1～2月	研究のまとめ、プレゼンデータ作成

※ コロナ対策で9、1、2月は集まらず。10、11月は、2校で同時に研究授業を実施。

Ⅳ 実践事例

1 Aグループの研究

**令和3年度
Aグループ**

**主体的な学びから郷土にふれ、
郷土を愛する幼児・児童の育成**

世話人	平石 香奈子	(第四幼稚園)
	大平 晴	(滝合小学校)
	若林 裕登	(日野第七小学校)
	白川 未来	(ふるさと文化財課)
顧問	會田 満	(元渋谷区立常盤松小学校長)

主題設定の理由

「主体的な学びから郷土にふれ、郷土を愛する幼児・児童の育成」を主題に「平山陸稲」「日野の稲作」をとりあげた

平山陸稲や日野の稲作を題材に考えられる多様な「学び」

- ・米は身近で大切な食べ物
- ・自然が豊かな日野 農業から地域を知る
- ・郷土の偉人や地域の方から学ぶ郷土愛や努力の大切さ

畑のお米と田んぼのお米を育てよう。 日野市立第四幼稚園 年長5歳児 第四幼稚園教諭 平石 香奈子

毎年“もち米”を栽培しています。今年度は！

【郷土教育推進委員会で得た知識を生かそう！】

- ・畑で栽培する稲がある。
- ・「林丈太郎」という郷土の先人が平山陸稲を全国に広めた。

平山陸稲を育てよう！
(苗を教育センターより頂く)

林丈太郎の話を紙芝居に！畑のお米に親しみかちてるようにしよう。

いよいよ実践！

6月 畑でもお米できるんだ。

8月中旬 大きくなあれ！夏休みは親子で水やりしたよ。

8月下旬 稲穂が！

9月 林丈太郎の話を読み聞かせ

文太郎さんはみんなが住んでいる日野の人でね・・・

子ども達の感想

- 畑のお米も田んぼのお米もおいしかった。
- 畑のお米、甘かったよ。
- 丈太郎さんの丈夫なお米、おにぎりにして食べたよ。
- 自分で育てたからいつものお米よりおいしかった。

平山陸稲の栽培、郷土の先人「林丈太郎」の話を伝える機会を通して、幼児は普段食しているお米を、より身近に感じたと思われた。

10月中旬 稲刈り

11月上旬 手でしごき脱穀・・・もみ殻取り

子ども、家族、先生達で脱穀取りをしてお米になりました

お米作るのって楽しい！けど大変！

Aグループは、幼稚園、小学校、ふるさと文化財課というメンバー構成です。幼稚園と小学校両方にまたがるテーマとして、幼児と児童が身近に感じる題材を考えました。「米」という題材は、幼児から興味を持ちやすく理解も容易なため、主体的な学びにつながります。また、「平山陸稲」をとりあげることで、林丈太郎という平山出身の人物がなした功績や郷土への思いを学ぶことができます。合わせて、低地や台地といった地域の特徴と農業の関係も学ぶことができます。第四幼稚園では、以前より取り組んでいるもち米栽培の経験も活かし「平山陸稲」を栽培しました。旧平山村地域の滝合小学校では道徳科の研究授業を行いました。第七小学校では総合的な学習の時間に日野の農業を取り上げて追究する活動を行いました。

次に、日野市立第四幼稚園の研究についてお話しします。園では毎年もち米栽培をしています。今年度は、本研究会で知った平山陸稲の苗を頂けることになり、2種類の稲を栽培することにしました。畑でお米がとれると知っている子はいませんでした。お米はいつも口にする食べ物なので、興味をもって苗植えや水やりをする姿がありました。

9月、稲穂がついたことを発見する子が出てきた頃、自分達が住んでいる日野の先人「林丈太郎」が畑で育つ丈夫なお米の種を発見して、全国に広めたことを、紙芝居にして読み聞かせました。「丈太郎さんの丈夫なお米」と親しみを持ち、稲刈りや脱穀、もみ殻取りに取り組む姿が見られました。田んぼと畑のお米を家庭で調理してもらい、お弁当に入れてもらったり、育てたお米のおいしさを自ら話したりする姿が多く見られました。小学校入学後にこの直接体験がつながっていくことを期待しています。

「日野市で生まれた林丈太郎の平山おかぼ発見の努力」

郷土の先人の努力を知り、郷土を愛する気持ちを育てる。

日野市立滝合小4年 大平 晴



身近に石碑があるんだ・・・

畑でお米が育つんだ。すごい！

丈太郎さんの努力が全国に広まったんだね。

実践② 滝合小学校 4年生特別な教科道德の授業の実践です。学習の題材名は「日野市で生まれた林丈太郎の平山おかぼ発見の努力」です。

授業の始めに陸稲の実物を見せると、子供たちは、稲と何が違うんだろうと興味津津でした。紙芝居を通して、水が届かない山には、田んぼで育てる稲作ができず、代わりに畑でも育つ陸稲を育て始めたことを学びました。

また、多摩のどうとく読み物「平山おかぼ」の資料を読み、郷土のために一生を捧げた林丈太郎の努力について考えました。子供たちの感想では、「自分達が住んでいる地域にこんなに凄い人がいると思わなかった。今度石碑を見に行ってみよう。」

「20年間も諦めずに良い陸稲を作るなんて私にはできないと思った。努力すれば、良いことはあるんだと思った。」「自分も日野市のためになることをしていきたい。川のゴミ掃除をして、きれいな日野市を守りたい。」など、郷土の先人の努力を知り文化と伝統とを大切に、郷土を愛する気持ちが育ちました。

「日野市の農業を調べよう」

日野市立日野第七小学校
第3学年 若林 裕登

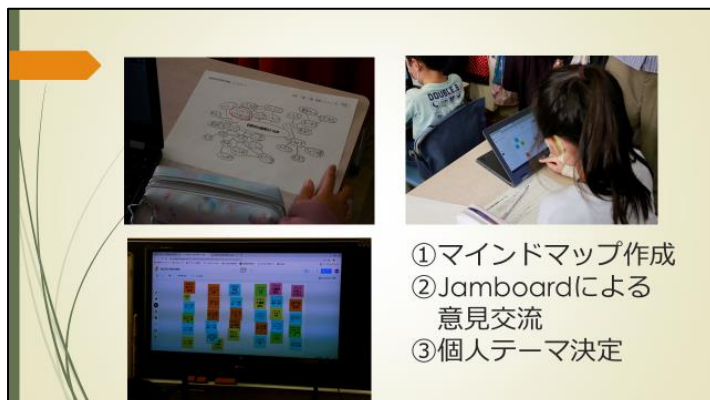


実践③ 日野第七小学校 3年生「総合的な学習の時間」の実践です。学習の題材名は「日野市の農業を調べよう」です。

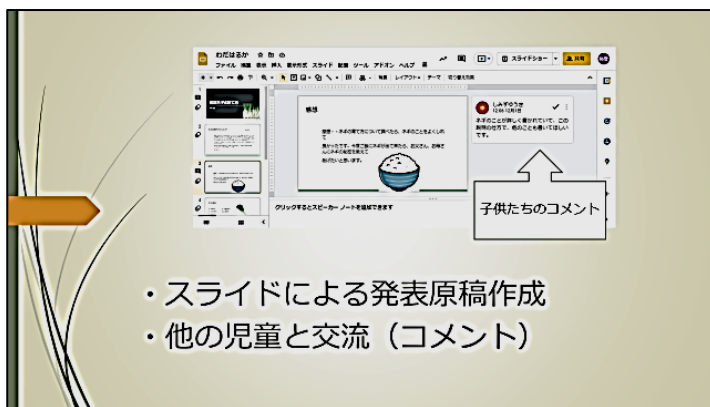
子供たちはまず、紙ベースで「日野市の農業といえば？」というキーワードをもとにマインドマップを作成しました。「たるトマト」「ブルーベリー」「大根」などスーパーに売っている野菜や日野市産の農作物について様々な言葉を書きました。

次に、子供たち一人一人が調べたい野菜や果物についてChromebookのアプリ「Jamboard」を活用し意見交流をしました。

その後、トマト・大根・ブルーベリーの「育ち方」、たまねぎ、じゃがいも、いちごの「種類」など、グループングをし図鑑やタブレットを使って調べ学習をしました。



- ① マインドマップ作成
- ② Jamboardによる意見交流
- ③ 個人テーマ決定



最後に自分で調べたものについて、スライドで交流会をしました。この学習を通して、子供たちは日野で育てられている農作物や農家の方々の苦勞など様々な視点から農業について学ぶことができました。

「今度農協へ行って日野市産の野菜を買ってみたい」

「給食で日野市産のたまねぎやニンジンが使われているなんて知らなかった」など色々な声が出ていました。日野市について愛着がもてた学習になりました。

【研究の成果】

- 教師自身が郷土について知る機会になり、自園校に適した教材に巡り合えた。
- 道徳授業で学区内の先人「林丈太郎」の努力の話を取り上げたことで、児童が郷土に愛着をもつことができた。（他学級にも教材を紹介）
- 第2学年生活科「まちたんけん」第3学年総合的な学習「日野市の農業」等に郷土教育の研究が非常に役立った。
- 幼稚園で郷土の先人が広めた平山陸稲の栽培を行う中で、米は畑と田んぼで育つことが分かり、米を一層身近に感じながら活動に取り組むことができた。

【今後の課題】

- ・郷土教育を教科に取り入れる際の目標の置き方をどうするか。価値項目か郷土愛か
- ・体験的学習を取り入れていく。
- ・情報量が多くなならない指導計画の工夫。

最後に、研究の成果と課題についてです。研究の成果としては ○教師自身が郷土について知り、自園自校に適した教材に巡り合えたこと、○学区内の先人や日野市の農業等を取り上げることで、幼児・児童が郷土に愛着をもつことができたこと、さらに他の学級にも教材を紹介できたこと、○新しいところでは幼稚園で制作した林丈太郎の紙芝居を道徳の授業の場面絵にも使用したこと（幼小連携）が挙げられます。

今後の課題としては、郷土教育を教科に取り入れる際の目標の置き方、体験的学習の取り入れ方、情報量が多くなならないような指導計画の工夫、などが挙げられたので、今後の研究に生かしていきたいと思います。

以上で、A グループの発表を終わります。

第4学年 特別の教科道徳 学習指導案

(研究主題)「主体的な学びから郷土にふれ、郷土を愛する児童の育成」

日時 令和3年10月26日 第5校時

対象 第4学1組 28名

学校名 日野市立滝合小学校

授業者 郷土教育推進研究委員会 A グループ

大平 晴

1 主題名 「平山おかぼ」 郷土愛

2 ねらい

「林丈太郎」の努力や功績について考え、郷土を愛する心情を高める。

3 教材 「平山陸稲」 みんなのどうとく多摩版/多摩のどうとく読み物 学研

4 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値

自分の育った郷土を大切にしたい気持ちを育てることは、周りの人々と協力して、よりよい生活をつくっていくことにつながる。しかし、そこで生活する自分にとっては、当たり前の環境であり、ふだんから大切にしたい、自分たちの力で更によくしていこうとする気持ちは、意識されることが少ない。そこで、道徳の時間に郷土に対して目を向けさせ、郷土の先人の努力を知り文化と伝統を大切にしたい、郷土を愛する気持ちを育てたい。

(2) 児童観

社会科の授業で、地域に住む人々の生活から地域社会の仕組みを学習してきた。その中で、自分にできることをしようとごみの分別などに積極的に取り組み始めた子供たちの姿が見えた。そこで、郷土の資料「平山おかぼ」を教材に取り上げ、どの地域でもその土地の発展のために努力した人がいることに気付かせたいと考えた。学習を通して地域の人々の生活や知恵に関心が向き、自分たちの郷土の歴史をより深く考えようとする心が生まれることを期待するとともに、郷土を大切にしたい心を育てたい。

(3) 教材観

本教材は、主人公の林丈太郎が「陸稲」という米作りをしていたが、日照りが続き、村の人々は米作りを諦めていた。しかし、丈太郎は陸稲の種を調べたり、米作りの方法を工夫したりしながら20年以上米作りを続けた。試行錯誤を重ねることで、平山の地でも新しい陸稲を実らせることに成功したが村の人々は信じてくれなかった。それでも丈太郎は改良を続け、日照りに強く味もよい陸稲作りに成功した。現在も、平山の宗印時境内には、林丈太郎の墓碑が残っている。また、本校近くの平山八幡神社にも平山おかぼの説明版がある。本教材を通して、丈太郎の行動が村の人々の生活を救っただけでなく、全国にその名を知られるまでの功績をあげたことを誇りに思い、郷土の愛着を高めてほしい。

5 本時

(1) 本時の目標

- ・郷土の先人の努力を知り、郷土を愛する気持ちを育てる。

(2) 本時の展開

	学習活動 主な発問 (○) 予想される児童の反応 (・) 中心発問 (◎)	☆指導上の留意点 ■評価規準
導入 7分	1 平山陸稲を見せて、陸稲について知る。 ○平山陸稲には、どんな特徴があるでしょう。 ・水がない。 ・畑で育てている。 ○誰が見つけたでしょう。 ・林丈太郎	☆紙芝居で、陸稲について知り、今日の学習教材について興味をもたせる。また、平山陸稲は日野市で生まれた林丈太郎が作ったことをおさえる。 ☆墓碑の画像を提示する。
	「日野市で生まれた林丈太郎の平山おかぼ発見の努力」	
展開 前段 20分	2 林丈太郎について調べる。 ○林丈太郎の業績とは。 ・日照りに強いおかぼをつくったこと。 ・新しい陸稲を村人にわけたこと。 ・平山陸稲として平山以外の土地に広めたこと。 3 林丈太郎の努力について話し合う。 ○林丈太郎の努力についてどんなことを思いましたか。 ・20年間も挫けずに続けられたことがすごい。 ・周りに「だめだ。」と言われても負けずに続けてきたから成功した。 ○どんな思い(願い)で平山おかぼを作っていたでしょう。 ・村人を救いたい。 ・食料をもっと増やして、お腹いっぱい食べたい。 4 郷土出身の林丈太郎の業績をまとめ感想を書く。	☆資料「平山おかぼ」を読み、林丈太郎の性格や努力について考えさせる。 ☆場面絵を提示しながら読み聞かせをし、考えさせたい場面を印象付けるようにする。読みに入る前に、読後林丈太郎の努力について話し合うことを伝える。 ☆友達と話し合う。
展開 後段 13分	5 感想を交流する。	☆近くの者同士で交流し、全体で何人か発表させる。「郷土愛」の多様な考えや気づきを知る。 ■郷土に対する自分なりの思いをもつことができたか。(ワークシート)
終末 5分	6 教師がこの地域の話をする。 ・この地域の人たちが、洪水から町を守るために、どのような工夫をしていたのか話す。	■自分なりの考えをもつことができたか。友達の考えを知ることができたか。 ワークシートに◎○△を記入する。
分	7 ふりかえり	

6 評価

- (1) 郷土を愛する気持ちを育むことができたか。
- (2) 本時の発問や活動はねらいを達成するために効果的であったか。

7 板書計画

おかぼ 画像	水がない、畑で育てている。 作った人 林丈太郎（日野市平山生まれ）
墓碑の 画像	平山おかぼ
「日野市で生まれた林丈太郎の平山おかぼ発見の努力	
○林丈太郎の業績 ・日照りに強いおかぼをつくったこと。 ・新しい陸稲を村人にわけたこと。 ・平山陸稲として平山以外の土地に広めたこと。	
○林丈太郎の努力 挿絵 ・50年間も挫折せずに続けられたことがすごい。 ・周りに「だめだ。」と言われても負けずに続けてきたから成功した。	
○どんな思い（願い）で平山おかぼを作っていたでしょう。 ・村人を救いたい。 ・食料をもっと増やして、お腹いっぱい食べたい。	

平山おかぼ

月 日

組 番

名前

■ ① 林丈太郎のどりよくについてどう思いましたか。

■ ② 今日の学習を通して、自分が住んでいる平山ちいきについて分かったことや自分の思いを書こう。

自分が今住んでいる平山ちいき

わたしは(ぼくは)

へ友達と話し合おう

へふりかえり

自分の考えをもつことができたか。
友達の考えをすることができたか。

◎ ◎
○ ○
△ △

2 Bグループの研究

令和3年度 Bグループ

郷土への愛着を深める
～身近な地域をもっと知ろう～

世話人 朝比奈 雅也（潤徳小学校）
小高 圭太（南平小学校）
井戸川 正弘（旭が丘小学校）
永山 和（仲田小学校）
原田 真紀子（七生緑小学校）
佐野 綾香（中央図書館）
顧問 吉野 美智子（元百草台小学校長）

研究主題

○令和3年度 郷土教育推進委員会 研究主題
『郷土への愛着を高め、
地域と共に生きようとする児童の育成』

○Bグループ研究テーマ
『郷土への愛着を深める
～身近な地域をもっと知ろう～』

今年度の郷土教育推進委員会の研究主題「郷土への愛着を高め、地域と共に生きようとする児童の育成」を受け、Bグループの研究テーマを話し合いました。

本グループは、中学年を担当している教員で構成されており、中学年の児童の発達段階を踏まえて研究テーマを協議しました。

中学年の児童にとって、日野市という大きな範囲での郷土理解は、まだ難しいという結論に至りました。

そこで、まずは学区内などの身近な地域に視点を当て、郷土理解を高め、郷土愛を深めることが大切だという思いからBグループの研究テーマを「郷土への愛着を深める～身近な地域をもっと知ろう～」として、研究を行いました。

研究内容(5実践)

- 潤徳小学校 朝比奈 雅也 3年 総合『日野市野菜博士になろう』
日野市の地産地消について知り、地域の特産物について興味をもち地域への関心を高める実践。
- 南平小学校 小高 圭太 3年 総合『南平の果てまでイッテQ』
南平のよさを見付け伝える活動を通して、地域の特色や郷土のよさを理解し郷土への愛着を高める実践。
- 旭が丘小学校 井戸川 正弘 4年 国語『心の動きを言葉にして、詩を書こう』
自分たちが生活している地域の良さを見つけ、詩で表現することを通し、郷土への愛着を高める実践。
- 仲田小学校 永山 和 4年 総合『多摩川とともに生きる』
多摩川に関心をもち、よりよい環境にするために自分ができることを考え、行動しようとする態度を育てる実践
- 七生緑小学校 原田 真紀子 3年 総合『ヤゴ救出大作戦』 道徳『ホタルの引っ越し』
自然と生命のつながりを見るとともに、身近な自然と自分達のかかわりを考え、地域への愛着を深める実践。

各校で行った研究実践です。

日野市食べ物 はかせになろう！ ～日野市のとくさん物をしらべよう～

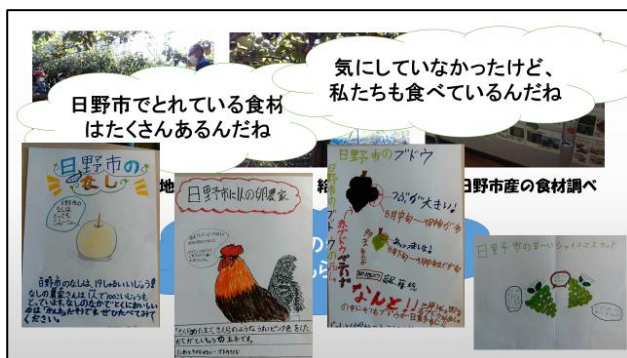
潤徳小学校 朝比奈雅也



実践①
小3 総合

実践① 潤徳小学校 3年生総合的な学習の時間の実践です。

学習の題材名は「日野市食べ物博士になろう！～日野市の特産物を調べよう～」です。



学習の始めに、地域の梨園に見学に行きました。梨農家さんの話を聞くことで、児童は興味を広げ学習に向かうことができるようになりました。

次に、給食に使われている日野市産の食材について調べました。日ごろ意識をせずに食べていたものが、日野市で作られたものだということを知り、児童の関心も高まりました。

体験活動を行う中で「日野市でとれている食材がたくさんあること」や「たくさん、日野市の物を食べていること」を実感することができました。

もっといろいろな人に知ってもらいたいという思いをもちました。日野市の特産物についてポスターにまとめ、潤徳小学校の児童に知らせる活動を行いました。

見学に行った梨園で、実際に梨を購入して食べたり、地域のスーパーにある地産地消のコーナーで買い物するようになったりする児童も多くみられ、自分たちの住む地域の良さを実感することができたようです。

実践②
小3 総合

南平の果てまでイッテQ！

～地域のとっておきを見付け伝えよう～




南平小学校 小高圭太

実践② 南平小学校 3年生総合的な学習の時間の実践です。学習の題材名は「南平の果てまでイッテQ ～地域のとっておきを見付け伝えよう～」です。

本学習では、自分たちの住む南平の良いところを見付け、伝える活動に取り組みました。

身近な地域の良さを見付け伝える活動を行うことで、地域への理解や愛着を高めることを目標として活動に取り組みました。

日野市では南平の公園にしかない遊具がある

児童館では種類以上のお菓子が売られているんだ！



南平にはいろいろないい所がある！
色々な人に知ってほしいな

市役所の方に公園についてインタビュー

児童館の方に種類以上のお菓子についてインタビュー

地域の駄菓子屋さんの方にインタビュー

学習の始めに、学年で地域巡りを行い南平小学校周辺にある公園やお店、神社、畑などを見て回りました。

その後、子供たちが興味をもった場所やお店など、それぞれのグループごとに分かれ

インターネットや本を活用したり、インタビュー活動を行ったりして、名前の由来やその場所の歴史についての調べ学習に取り組みました。

「日野市内で南平にしかない遊具がある」こと

「南平の児童館では、お誕生日会などのイベントを行っている」こと

「駄菓子屋さんには100種類以上のお菓子を売っている」ことなど

南平にある様々な魅力を見付けることができました。

そのような活動を通して、「南平のいい所を、色々な人に知ってほしい」という気持ちが子供たちから広がりました。

3学期の学習では、これまで調べたことをまとめ伝えるための活動を行っていきます。

多摩川とともに生きる ～多摩川はかせになろう～



仲田小学校 永山 和

実践④ 仲田小学校 4年生総合的な学習の時間の実践です。

学習の題材名は「多摩川とともに生きる ～多摩川はかせになろう～」です。

本学習では、自分たちの身近にある多摩川に関心をもち、よりよい環境にするための地域の取組について調べるとともに、生活の中で自分ができることを考え、行動しようとする態度を育てることを目標としました。



学習の始めに、多摩川漁業協同組合の方に協力を依頼し、アユの稚魚の放流体験をさせていただきました。

遠足では、マス釣り体験をし、命をいただくということについて考えることもできました。

このような体験から多摩川について興味や関心をもった後、児童は身近にある多摩川について自分が興味をもったテーマで調べ学習を始めました。

集めた情報を整理し、グーグルスライドで共同編集をし、発表会を行いました。

最後に、多摩川をできる限りきれいに残していくために、過去、現在そして未来へと時代が流れる中で今の自分たちができることについて考えをまとめ、学習を終えました。

生き物大作戦 ～ヤゴ救出大作戦～



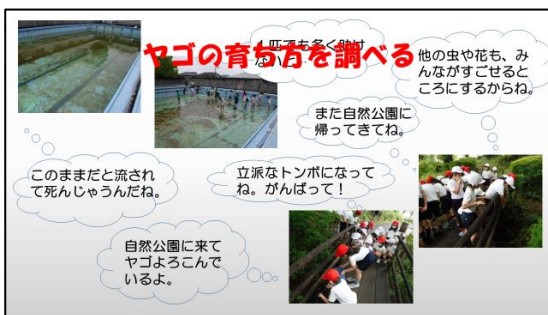
七生緑小学校 原田真紀子

実践⑤ 七生緑小学校 3年生総合的な学習の時間と道徳の実践です。

学習の題材名は、「生き物大作戦～ヤゴ救出大作戦～」です。

本学習では、学校のプールから救出したヤゴを隣の自然公園に放すことを通して、自然と生命のつながりや考えとともに、身近な自然と自分達とのかわりや考えを目標としました。

また、道徳の「ホタルの引っこし」にも関連させ、自然の大切さに気づき、進んで動植物を大切にしようとする態度の育成にもつなげました。



導入として、本やインターネットでヤゴやヤゴの育ち方について調べたり知っていることを話し合ったりしました。

実際にプールでヤゴを救出しました。「枯れ葉の下に、たくさんいる。」と発見し、1匹でも多くの生命を救おうと、友達と協力し合って一生懸命に救出をしていました。バケツいっぱいの子を隣の自然公園に運び、公園内の池に放流しました。救出の感想をみんなで交流し、自分たちの身近な公園の自然について話し合い、そのよさを持続するために自分たちにできることを話し合いました。

そして、自分たちが大人になってもそのよさが続いていくために、「公園に遊びに行ったら、ゴミはちゃんと持ち帰ろう。」「生き物が過ごせるように、自然を大事にしよう。」など、自分たちにできることを考え、発表し合いました。後日、「昨日自然公園の池、見てきたよ。」「ぼくも見てきた。」と自ら足を運び様子を見に行く児童もいました。また、道徳の時間に「ホタルの引っこし」で、自然と動植物の生命のつながりについても考えました。

Bグループの成果と課題

成果

- 身近な地域を題材とすることで、児童も実感をもって学習に取り組むことができた。
- 児童の地域への関心が高まり、日々の生活の中で意識している様子が見られた。
- 教員自身の郷土への理解が高まった。

課題

- △郷土教育を学年を貫き、各教科横断的に行うことで学習効果は高まると考えるが、実際に学校全体で取り組むことは難しく単発的になってしまう。

第4学年国語科指導案

令和3年11月30日（火）5校時
日野市立旭が丘小学校
第4学年3組 児童数27名
授業者 郷土教育推進研究委員会Bグループ
井戸川 正弘
会場 4年3組 教室

（研究主題）「郷土への愛着を高め、地域と共に生きようとする児童の育成」
～郷土への愛着を高める。身近な地域をもっと知ろう～

1. 単元名 心の動きを言葉にして、詩を書こう「感動を言葉に」

2. 単元の目標

- ◎間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えることができる。（思B（1）エ）
- 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。（知（1）オ）
- 相手や目的を意識して、経験したことから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。（思B（1）ア）

3. 単元の評価規準

- 【知】 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにしている。
- 【思】 「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。
「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えている。
- 【態】 学習の見通しをもって、心を動かされたときのことを詩に書き、進んで間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりしようとしている。

4. 指導観

（1）単元（題材）観

子供たちは普段の生活の中できらりと光る発見をしたり、景色の素晴らしさに感動したり、生物の不思議に驚いたりしながら日々を送っている。日常生活の中で経験する「心が動いた」時を言葉で残すことの意味は大きい。本単元ではその時の気持ちにできるだけぴったりの言葉を探し、選び、並べ、つなげて表現することを体験させたい。また、自分たちが住んでいる地域に、異聖歌という著名な詩人が暮らしていたことを伝え、詩の素晴らしさと、自分たちが暮らしている地域の素晴らしさにも着目させたい。

（2）児童・生徒観

本学級では文章を組み立てたり、文章で自分の考えを表現したりするのが苦手な児童が多いと感じている。文章を書いたらすぐに「できました。」というが、見てみると安易な表現や組み立てになってしまいがちである。その原因には語彙の少なさと、言葉を「選ぶ」「組み合わせる」「入

れ替える」などの力が身についていないからであると考え。本単元を通して、自分の気持ちをよりよく伝えるために、表現方法を追求して粘り強く取り組む力を育成したい。

また、普段生活している地域の良さについて考え、その良さを伝える詩を創作することにより、かつて、日野市に暮らし郷土への思いを詩に込めた異聖歌の創作過程を疑似体験させたい。また自分たちが生活している地域の良さについて考えさせたい。

創作が苦手な児童への配慮として、詩は自分の気持ちをそのまま表現すれば良いことを伝え、自由な発想を大切に、楽しみながら取り組めるような仕掛けを用意する。面白い比喻表現や擬音語を使った詩を多く紹介し、詩作は気軽に取り組めるものだと伝える。

初めは一番自分が好きな物を題材に考えさせ、徐々に詩を創作する力を付けさせていきたい。

(3) 教材観

学習の大きな柱は、①題材選び、②組み立て、③言葉を選んだうえでの記述・推敲、④共有である。①については題材例を挙げ、児童の活動を支援する。「心が動く」とはどういうときなのか、教師の体験を伝え、具体的なイメージをもたせたい。②③についてはまど・みちお氏や谷川俊太郎氏、異聖歌氏の作品を参考に詩の組み立てを考えさせたり、これまでの学習で触れてきた比喻・擬人法・繰り返し・対比・倒置などの技法や様子を表す言葉を使って書いたりすることを通して、詩作の知識・技能を身に付けさせたい。また、単元の後半では、身に付けてきた創作の力を活かし、郷土の風景や自然、生物などの良さを見つけ、そのことを詩で表現するという取り組みをすることにより、普段自分たちが生活している地域の良さに気付かせたい。

5. 年間指導計画における位置づけ

創作文を書く活動としては、3年次の「たから島のぼうけん」での物語の創作に続くものであり、詩の創作という点では、2年次の「見たこと、かんじたこと」と直接的に関わる。本単元での学習は、この後、6年「思い出を言葉に」で、形式と表現を工夫して思い出を言葉にする活動につながっていく。

6. 単元（題材）の指導計画と評価計画。全9時間扱い

時	主な学習活動	評価規準	学習場所	備考
1	単元のめあてを確かめ、学習計画を立てる。	・様子や行動、気持ちを表す語句の量を増している。【記述】	4年3組教室	
2	詩に書きたいことを決め、それを表現するための言葉を集める。	・経験したことなどから、詩に書く題材を選び、表現したいことを明確にしている。【記述】	4年3組教室	
3	詩の組み立てを考える。 これまでに学習した詩を振り返る。	・様子や行動、気持ちや性格を表す語句を使って、詩を書いている。【記述】	4年3組教室	・これまでに学習してきた詩や面白い詩を見やすく掲示し、創作の際に参考にできるようにする。

4 5 6	・言葉を選んで詩を書く。 ・読み返して、詩を整える。	・様子や行動、気持ちや性格を表す語句を使って、詩を書いている。【記述】 ・心が動かされた時のことが伝わる表現になっているか、詩の書き方の工夫が使えているかという観点で詩を読み返し、より良く伝わるように詩を整えている。 【記述・発言】	4年3組教室	
7	・異聖歌についての知識を深めるとともに聖歌の詩を音読し、5つの詩の中から自分の好きな詩を選び、理由とともに発表する。	異聖歌の五つの詩の中から、詩の工夫を見つけている。 【記述・発言】	4年3組教室	・異聖歌に関する資料と説話を提示し、聖歌がどのような人物であったかを伝えるとともに、身近な地域で暮らしていた作家に対する興味を持てるようにする。
8	・中央公園と第二公園へ行き、普段生活の中で利用している地域の中で、地域の良さを見つけ、写真を撮る。	・経験したことなどから、詩に書く題材を選び、表現したいことを明確にしている。 【記述】	4年3組教室	・楽しみながら、地域の良さを見つけられるように20分ほどの時間を取り。ゆっくり散策する。
9 (本時)	・地域の中で自分が見つけた素晴らしい景色や生き物、自然の写真を見ながら、その時の気持ちを表現する詩を創作する。	・心が動かされた時のことが伝わる表現になっているか、詩の書き方の工夫が使えているかという観点で詩を読み返し、より良く伝わるように詩を整えている。 【記述・発言】	4年3組教室	・今まで学んできた詩の技法を黒板に見やすく提示しておき、児童が創作しやすいようにしておく。

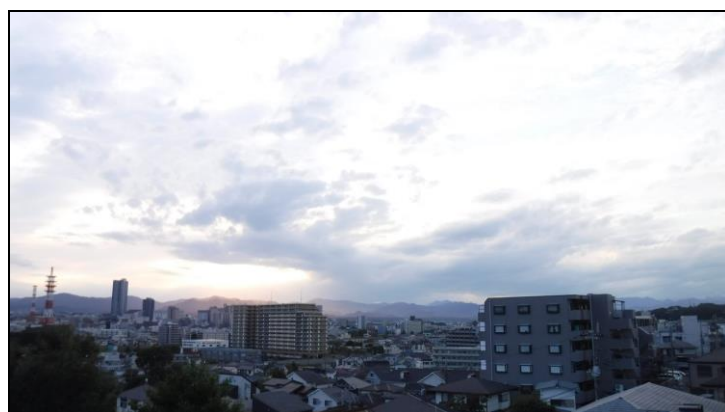
7. 本時の活動（9時間扱いの9時間目）

(1)本時の目標 自分たちが生活している地域の良さを詩で表現する。

(2)本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準（評価方法）
導入 5分	・画面に映し出された日野市の写真を見る。	・一人一人が撮影してきた地域の写真を画面に映し出す。	
めあて 私たちが生活している地域の良さを詩で表現しよう。			
展開① 25分	・地域の中で自分が見つけた素晴らしい景色や生き物、自然の写真を見ながら、その時の気持ちを表現する詩を創作する。	・前時に公園で気に入った光景を見つけられなかった児童には、普段子供たちにとってなじみが深い地域の写真をとっておき、その写真の中から選べるようにする。 ・今まで学んできた詩の技法を黒板に見やすく提示しておき、児童が創作しやすいようにしておく。	・心が動かされた時のことが伝わる表現になっているか、詩の書き方の工夫が使えているかという観点で詩を読み返し、より良く伝わるように詩を整えている。 【記述・発言】
展開② 10分	・創作した詩を発表し合い、友達の詩の工夫を見つける。	・詩を本人が読むのではなく周りの児童に読んでもらうことにより、音の響きや構成をより楽しめるようにする。	・詩の書き方の工夫を意識し、友達の詩の良さを見つけている。【発言】
終末 5分	・本時の学習を振り返る、振り返りシートを記入する。 振り返りシート内容 ・詩の創作をしてみてどう感じたか。 ・自分の暮らしている地域を題材にしてみてかんじたことはあるか。	・本時の学習を、振り返り、学習内容をまとめる。	・自分の詩の創作過程を振り返り、身に付けた力を今後に生かす意欲を持っている。 【記述・発言】

(3) 子供たちの作品イメージ



夕暮れ
井戸川 正弘
また、日が暮れていく。
何も終わってないのに暮れていく。
止めたくても止められない。
帰りたくても帰れない。
あと少しだけ頑張ろう。
あと少しだけ頑張ろう。

3 Cグループの研究

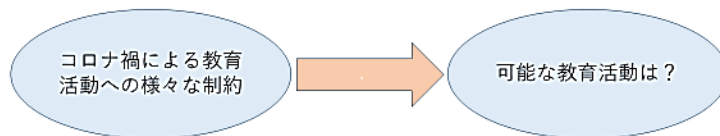
令和3年度 Cグループ

日野市の郷土関係機関や人材との連携を通して

世話人	柳井 大輔	(日野第一小学校)
	米原 和哉	(日野第三小学校)
	白須 隆	(日野第五小学校)
	真野 尚人	(日野第八小学校)
	高橋 秀之	(ふるさと文化財課)
顧問	小杉 博司	(元日野第一小学校長)

わたしたちCグループでは、郷土を活用した授業実践と教材作りをテーマに、1年間活動に取り組みました。その際に、完全実施となった「新学習指導要領」における、新しい見方・考え方を取り入れ、授業実践と教材づくりに取り組みました。

Cグループ
テーマ：設定の理由



郷土への愛着を高め、地域と共に生きようとする児童の育成
～日野市の郷土関係機関や人材との連携を通して～

それではCグループの発表を始めます。私たちCグループでは、テーマを設定するにあたり、昨年に続き、コロナ禍という事態であることを踏まえ、どのような活動が可能かを考えました。

日野市のよいところを教員が知り、子供たちが地元に興味をもつような実践をしていこうとグループで話し合いました。

児童の主体的な学びを促進するような学習活動をしていくという共通認識を各教員がもって取り組みました。それぞれの取り上げた教科が分かれたため、多様な研究を進めることができました。

授業① 第4学年 総合的な学習の時間
日野第一小学校 柳井 大輔

単元名 「日野市のいいところ見つけ」

扱った郷土資料

『歩こう 調べよう ふるさと七生』
『ひのっ子 新選組探検隊 ～歩こう調べよう
ふるさと日野～』
『日野っ子 日野宿発見』

第一小学校で行った事例です。総合的な学習の時間の授業で、郷土教育の授業に取り扱いました。

日野市のいいところを見つけるとともに、日野市の良さに気付くことを目的として活動しました。



小杉先生をお招きし、フィールドワークまで指導いただきました。

講師として、小杉元校長先生をお招きし、日野駅周辺の歴史についてクイズを基に学習を開始しました。

クイズの答えを実際にフィールドワークを行って探しに行き、見付けることを通して、日野市の歴史の深さに気付いていました。この導入により、その後の学習活動に対する児童の興味・関心が高まりました。



学習展示
発表会

フィールドワーク後は、日野市に関する自分の興味があることを決め、調べ学習をしました。本の活用やクロムブックを使用し、情報を集め、友達と情報を共有し、スライドを作成しました。スライド作りでは、地域の人達に見せる目的で作成するので、地域の人たちが知らないような情報を載せる工夫をしていました。今回、自分たちの地域に全く興味・関心が無かった児童が、フィールドワークを行ったことで、日野の町の歴史の長さ、そして町の良さに気付くことができました。

また、クイズ形式の導入を行っていたことで、自分の興味の選択肢も増えました。クロムブックの使用から、スライドを早く作りたい！こんな工夫をしたい！見る人が興味をもつようなスライドを作りたいと、学習意欲も非常に見られました。

展示会後も、自分でさらに調べた児童や、家族ともう一度見に行った児童など、郷土についての関心が非常に高まった様子が見られました。児童自身がこのコロナ禍の状況でも、主体的に興味・関心に対して、できることをして学習に取り組むことができたと感じました。話を聞くだけ、映像や資料を見るだけではなく、やはり実際に自分の目で見る。実際に触ってみる。という活動が学習意欲向上や、興味・関心の高まりにつながると改めて分かりました。また、郷土関係機関との連携も取れたことが学校側としても、今後の授業へ活かせる財産となりました。

第4学年 国語「パンフレットを読もう」 日野市立日野第三小学校 米原和哉

扱った郷土資料

『歩こう 調べよう ふるさと七生（第1版）』

『日野っ子新選組探検隊～歩こう調べよう ふるさと日野～』
(日野市教育委員会 作成)

『日野市観光マップ』 (日野市観光協会 作成)

『日野市立七ツ塚ファーマーズセンター』

日野第三小学校の実践事例です。教科は国語です。

単元名は「パンフレットを読もう」資料は『歩こう 調べよう ふるさと七生』、『ひのっ子新選組探検隊～歩こう調べよう ふるさと日野～』、『日野市観光マップ』、『日野市立七ツ塚ファーマーズセンター』の4点を使いました。

相手

目的

工夫



自分たちが生まれ育っている日野の地域に興味をもち、郷土を知り、郷土を愛する心を育てたいと思い実践しました。導入で、教科書に載っているパンフレットの例を用いて、「伝える相手」、「伝える目的」、「読みやすくするための工夫」の観点をもちました。その後、どのようなパンフレットが読みたいか問いかけたところ、「日野市に関するものがいい。」と、子供たちから声が上がったため、4つの資料を用意しました。

この中から一つを選びました。全員分の資料を現物で用意することは難しかったため、クロムブックを用いて資料を用意しました。



児童が作ったスライド

選んだ資料から読み取った内容を、一人一人スライドにまとめました。

同じ資料を選んだ児童同士で、「日野市のパンフレットは、振り仮名がないから大人向けだな。」「見どころが書いてあるから、初めて日野市に来た人向けだよ。」など、話し合いながら活動を進めていました。

工夫

- ・大事なところは、色で囲んである
- ・文字の近くに写真があって、より分かりやすくなっている
- ・七ツ塚ファーマーズセンターの「七ツ塚」について短く説明がある
(七ツ塚ファーマーズセンターについて知ってもらいたいから)
- ・良さが書いてある ランチが食べられることなど
(多くの人に良さを知ってもらいたいから)

() は自分が思ったことです。

スライドも、みんなが見やすいように表紙に写真を貼るなど工夫している児童もありました。自分と同じ資料を選んだ友達のスライドを見て、自分とは違う視点でまとめていることに気付くことができました。また、自分とは違う資料を選んだ友達のスライドを見て、資料を見ることで、資料によって相手意識や目的、工夫にも違いがあることに気付きました。

自分の住んでいる地域について、新たな発見や実際に行ってみたいという思いに繋がったと考えます。

第4学年 社会科 「受けつがれる祭り ～府中くらやみ祭～」

日野市立日野第八小学校 真野尚人

日野市立日野第八小学校では、社会科で郷土教育について取り組みました。

単元名は「受け継がれる祭り～府中くらやみ祭～」です。ると改めて分かりました。また、郷土関係機関との連携も取れたことが学校側としても、今後の授業へ活かせる財産となりました。



自分達の地域には文化財が身近にあること、そして日野市には重要な文化財や受け継がれている年中行事があることを知り、日野市にある文化財や年中行事を大切にしていきたいという、郷土を愛する心を育むきっかけにしたいと考え、実践をしました。

まず導入として、八小の地域にある高幡不動尊（仁王門）や落川史跡公園、聞いたことや知っている児童が多くいる「新選組」に関わる新選組祭りといった、親しみやすい資料を提示し「文化財」「年中行事」に分ける活動をしました。

- ・まつりなどに参加する
- ・文化財を大切にする
- ・大切さを伝える

人々に知ってもらう。（例）
「すごいんだよ!」、「楽しいよ。」みんなと協力する。
1年や2年と少しでもふえる。

私達より小さい子に「こうゆうのがあるんだよ」と教えてあげたい。（他の人にも）
日野市の良さを始めてくる人に教えてあげたい。

府中くらやみ祭の学習後、日野市や地域にある文化財や年中行事を受け継いでいくため、残していくために今できることを考えました。「祭りに参加する。」「文化財を大切にしたり、大切さを伝えたりする。」「いろいろな人に年中行事の魅力や良さを伝えて知ってもらう。」など、一人一人自分ができることを考えることができました。

日野市にも伝統文化財があることを知った。できないかもしれないけど日野市の無形文化財や伝統文化財を増やして日野市のことをもっと他の人に知ってもらいたいと思いました。

日野には、たくさんの、文化財等があることを知った。これからも、伝統や文化とかを、大切に、大事に、受けつぎたい。

まだ日野市のことを知らない人たちに一生懸命頑張って日野市の良さを伝えたいと思いました。

単元の振り返りでは、「日野市にも文化財や年中行事が多くあることを初めて知った」「大切に受け継いでいきたい」や、「日野市のことをもっと知ってもらいたい」という思いをもつ児童が多くいました。本単元を通して、日野市・自分の地域の良さを知るとともに、大切にしていきたいという郷土を愛する気持ちや郷土を誇る気持ちにつながったのではないかと考えます。

成果と課題

成果

地元の関係機関と連携を取ったことが、児童の学習意欲向上につながった。

また、日野の中でも、それぞれの学校の地域の特徴を生かした授業展開ができた。

課題

コロナ禍など、不安定な生活状況の中で、継続的に関係機関との連携をとりつつ、学習を進めることができるかどうか不透明なので方策を考える。

Cグループの研究の成果と今後の課題です。

成果としては、「地元の関係機関との連携で、児童の学習意欲を高めることができた」こと、「それぞれの学校のある地域の特徴を生かした授業ができた」ことの2点が挙げられます。

課題は、「今後も関係機関との連携を継続していくための方策を考え、遂行することです。

以上で、Cグループの発表を終わります。

総合的な学習の時間 学習指導案

日時 令和3年10月26日 第5校時
対象 日野第一小学校 第4年2組30名
授業者 郷土教育推進研究委員会Cグループ
柳井 大輔

(研究主題)「郷土への愛着を高め、地域と共に生きようとする児童の育成」
～日野市の郷土関係機関や人材との連携を通して～

1 単元名 「日野の良いところ見つけ」

2 単元の目標

自分の住む町の歴史に触れ、地域について興味関心をもち、地域の一員として日野の良さを他者に伝えようとする態度を育む。

3 指導観

(1) 単元観

児童の生活するこの日野地域は、東京都の中心に位置し、いくつもの歴史的な建造物や文化が存在する。歴史上価値のあるものも多く、今回取り上げた中には日野第一小学校や日野用水などがあり、日野ならではの魅力の一つである。

日野第一小学校は児童にとって、我が校であり関わりが強く身近な存在である。日野第一小学校は新撰組祭りの拠点になるなど、地域とのつながりも強い。また歴史も古く多くの魅力がある。

指導にあたっては、児童の生活経験を大切にし、その中から出た疑問や思いをもとに課題設定をしていきたい。また本単元を通して、地域の特色を実際に見て確かめ、その特色を調べるとともに、日野の良さを伝えるために情報を取捨選択して発信することで地域の一員だと実感する。そのために、宝泉寺と大昌寺の関係者との連携を図り、年に1回しか見ることのできない建物内を見学する。

(2) 児童観

本学級の児童は好奇心が旺盛で、特に調べ学習の際は、どんどん自ら調べ課題を追究する姿が多くみられる。好奇心をさらに高めるためにフィールドワークを行い、より日野に対しての興味・関心をもたせ調べ学習に臨ませる。一方で、情報を集めることはできるがまとめることが苦手な児童も少なからずいる。そのような児童には、個別で声掛けをし情報をまとめる際に具体例を提示していく。

学習展示発表会で作成したスライドの展示を行い、地域の一員として郷土を伝えていくすばらしさを感じ、郷土を愛する心を育てていく。

(3) 教材観

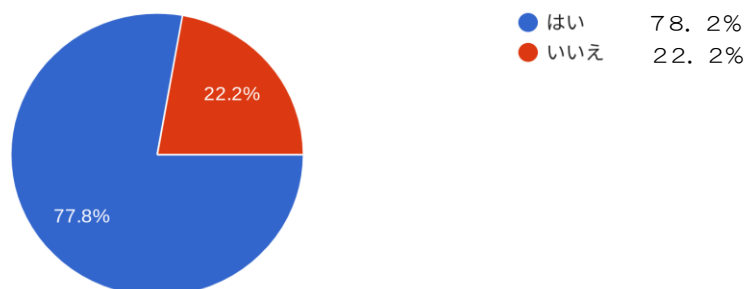
日野第一小学校の周りには多くの特色があり、すぐに見に行くことができる。この特長を活かし、見て感じて興味関心を高めていくために学校近辺でのフィールドワークを行い、実際のものを取り上げるようにする。その後、自分が興味をもったものをクロムブックやひのっ子日野宿発見などで情報収集を行い、スライドを作成することで日野の魅力に気づき、生まれ育った町に対して愛着をもつことが期待できる。

フィールドワーク後にアンケートを取り、日野駅近辺の何に興味をもったか調査した結果、以下のものとなった。フィールドワークを行ったことで学級の約8割が自分の住む町に興味をもつようになった。また実際に行ったものの中で一番興味をもったものは、自分の学校である日野第一小学校が約6割、八坂神社が約4割などとなった。※複数回答あり

この結果から、児童たちの学習において自分の足で実際のものを見に行くことが学習意欲を高めたことが分かった。また興味をもつものがより自分に身近なものが多いことも分かった。

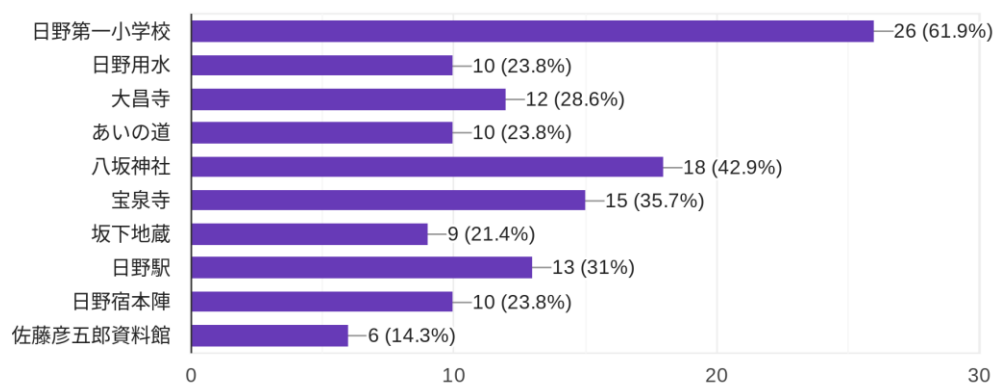
フィールドワークに行って日野について興味は出てきましたか？

36 件の回答



無題の問題

42 件の回答



4 単元計画

(1) 評価規準

A 知識及び技能	B 思考力、判断力、表現力等	C 学びに向かう力・人間性
①既習内容から得た知識を基に考えをまとめることに活かしている。 ②地域について知ろうとする意欲をもち、調べ方を工夫したり分かりやすくまとめたりしている。	①課題の設定・・・体験から自らの課題を設定することができる。 ②情報の収集・・・体験や資料から情報収集することができる。 ③整理・分析・・・友達と意見を交換したり情報を得たりして、整理することができる。 ④まとめ・表現・・・これからの生活に活かせることをまとめ、わかりやすく伝えることができる。	①自分自身・・・相手の思いを受け止めようとする。 ②他者や社会・・・地域の郷土や自然を大切にするとする。

(2) 単元の指導計画 全 10 時間扱い

時間	主な学習活動	評価規準	学習場所	備考
1	日野の良いところを出してみる。	自らの体験を基に、地域の特徴を出すことができる。	教室	他の市と比べながら、日野の良さに気づかせる。
2	冊子を見て、自分が興味をもって調べられるものを決める。	自らの体験を基に、調べたい内容を決めることができる。	教室	興味・関心の低い児童には、体験を思い返すことで、調べるものの候補を出させる。
3	フィールドワークを行い、自分が地域の特色を知る。	体験を通して、情報を収集できている。	日野第一小学校周辺	ワークシートに情報をまとめる。
4	フィールドワークで気になった場所やものを調べてみる	フィールドワークから得た情報を基に様々なものを調べることができる。	教室	クロムブックを使用。
5 6	・自分がスライドにまとめるものを一つに絞り情報を集める。 ・情報の共有。	・自分がスライドにどのようにまとめるか課題設定ができている。 ・集めた情報を友達と共有し、活用しようとしている。	教室	クロムブック、日野っ子日野宿本陣等を活用する。
7 8	集めた情報をクロムブックで、スライドにまとめる。	伝えたい情報をわかりやすくまとめている。	教室	グーグルクロムのスライドを使用。
9	作成したスライドを班の友達に発表をする。	まとめるための工夫や郷土の魅力を伝えようとしている。	教室	スライドの発表時は、班になり小規模で発表。
10	今回の学習を通して、学んだことのまとめ	今後の生活にどのように活かしていくかを考えることができる。	教室	ワークシートを使用。また、何人かの児童には全体に考えを発表を促す

5 本時の指導（10 時間扱いの 5 時間目）

（1） 本時の目標

自らの興味がある日野の良いところを調べ、情報を収集し、その魅力についてどのようにして伝えるかを考えることができる。

（2） 展開

	○学習活動 ・予想される児童の反応	☆指導上の留意点 ■評価規準
導入	○前時までの学習を振り返り、本時のねらいを伝え、学習の見通しをもたせる。（5 分） ※本時の学習問題「人に伝えたい日野の良いところの情報を集めよう」	☆活動時間の区切りと活動の内容を伝え、見通しをもたせる。
展開	○クロムブック、日野っ子日野宿発見などを使い、調べたいことに基づいたグループに分かれ、調べることや調べ方を確認する。（10 分） ○個人で調べることを決め、情報を集める（20 分） ・知りたい情報が見つかりません。 ・どの情報を使うか迷います。 ○本時の調べ学習の進捗を確認し合い、次時の活動についての見通しをもつ。（5 分） ・僕は新選組について調べたよ。 ・〇〇さんの情報を私も使いたい。 ・その情報はどこで見つけた？ ・僕と同じ情報だね。	☆情報収集の仕方が難しい児童には個別での支援。 ☆情報が多すぎて、取捨選択に困らないように、情報収集直前に集め方を提示。 ☆関係のないものを調べないように指導。 ☆友達のいい情報はメモ用紙に記録し、自分がまとめて使えるように指導。 ■体験や資料から情報収集することができる。 ■友達と意見を交換したり情報を得たりして、整理することができる。
終末	○本時の調べ学習の振り返り。 ○今後の学習活動の予告と次回の学習活動内容を伝える。	☆今後の学習活動全体のことを話し、見通しをもたせる。

（3） 板書計画

10/26	今日の学習
	「人に伝えたい日野の良いところの情報を集めよう」
情報の集め方 ・キーワードを入れる 例 日野囃子、新選組、日野市 ・使いたい情報だけメモを取る	時間 ・一人で調べる時間 ○時○分まで ・友達と情報交換 ○時○分まで

4 Dグループの研究

**令和3年度
Dグループ**

郷土への関心、理解を深め、郷土への愛着を育む
教材の開発を目指して ～日野の新たな魅力発見！～

佐藤 隆寛	(豊田小学校)
大竹 弘通	(日野第四小学校)
澤久保 敦	(平山小学校)
峰尾 恭子	(東光寺小学校)
世話人 白石 誠	(夢が丘小学校)
長谷川 正	(中央公民館)
顧問 高橋 清吾	(日野第一中学校統括校長)

令和3年度 郷土教育推進委員会 研究主題

『郷土への愛着を高め、地域と共に
生きようとする児童の育成』

Dグループ研究テーマ

『郷土への関心、理解を深め、郷土への愛着を育む
教材の開発を目指して ～日野の新たな魅力発見！～』

私たちDグループでは、研究主題である『郷土への愛着を高め、地域と共に生きようとする児童の育成』を受けて、『郷土への関心、理解を深め、郷土への愛着を育む教材の開発を目指して～日野の新たな魅力発見～』とグループの研究テーマを設定しました。

日野市では、しっかりとまとめられた魅力ある地域教材が多数ありますが、各学校のカリキュラムや授業時数、あるいは地域性の問題で、授業の中に組み込むことが難しいものもあります。Dグループでは、地域性に捉われず、日野市内のどの学校においても扱うことができ、またカリキュラムや授業時数の制限をあまり受けずに、日野についての関心、理解を深め、愛着を深めることができる教材の開発を目指しました。

研究内容

○グループ共同研究 6年 社会科『明治の新しい国づくり』

日本が明治維新を機に欧米諸国の文化を取り入れつつ近代化を進めたことについて理解する。

近代化
『富国強兵』

地租改正
徴兵令
殖産興業
などの政策

殖産興業と「日野の養蚕」




(日野市ふるさと文化財庫 より) (日野市ふるさと博物館 より)

Dグループでは、「日野の養蚕」を6年生の歴史学習「明治時代の殖産興業」と関連させて位置付けました。この単元のねらいは、日本が明治維新を機に欧米諸国の文化を取り入れつつ近代化を進めたことについて理解するものです。日本は『富国強兵』をスローガンとして、地租改正、徴兵令、殖産興業などの政策を進めていきます。この時代、日本の経済発展の一翼を担った殖産興業の施策において、日野の養蚕が大きな役割を果たしています。

Dグループは、日野の養蚕をこの単元に位置付けることで、日野が養蚕によって日本の発展のために果たした役割に気づき、郷土がもつ素晴らしさを感じられるようにしていきたいと考えました。

かつて蚕糸試験場であった日野の桑ハウスのフィールドワークや日野市ふるさと博物館の『日野と養蚕』の資料を基に教材研究を行い、児童が読み取れる教材を作成しました。

Dグループの実践

6年生 社会科 「明治の新しい国づくり」

本時の目標

日野市での養蚕業について設定したテーマに基づいて調べ、殖産興業に日野市が果たした役割について考える。

殖産興業

- ・産業や経済の発展を目指す
- ・製糸業を重視し、官営の富岡製糸場を設置

どのような関係があるのか？

日野

- ・養蚕が盛んだった
- ・かつて、桑園や蚕糸試験場があった

A 日野市の養蚕

B 蚕の飼育

C 養蚕の研究

D 養蚕と経済

4つのテーマに分かれて調べ学習を行い、課題解決に向かった

Dグループの「日野の養蚕」と「明治時代の殖産興業」とを関連付けた実践では、「富国強兵」を掲げて取り組んでいた殖産興業の中でとりわけ生糸を生産する製糸業に重点が置かれていたということ。そして生糸を作る上で重要となる養蚕が日野で盛んであったこと。この2つの関係性を資料を使って読み取り、日野市の養蚕が殖産興業に果たした役割を考えていくことを本時の目標としました。

児童が調べる養蚕についての資料は「日野市の養蚕」「蚕の飼育」「養蚕の研究」「養蚕と経済」の4つで、Dグループの共同研究によって作成した自作の資料です。児童は自分が調べたいテーマを自分で選択し、同じテーマ同士でグループをつくり、調べ学習を進めていきました。

指導の流れ

①課題

日野市の養蚕業は、殖産興業とどのように関係したのだろう。

殖産興業と日野の養蚕業の関係について考えていくという課題設定。

②グループでの調べ学習

自分が選択した課題について「日野との関わり」を主な視点として、調べ学習を行い、分かったことを短冊にまとめる。

- ・貧困について研究する施設が日野にできた
- ・蚕糸試験場に提供する桑を育てる場所として日野が選ばれた
- ・日野は質の良い桑が育つ地理的条件が揃っていたことなどを読み取りました

③調べたことの共有

それぞれのグループで調べたことを全体で発表し、黒板に構造的にまとめる。

④課題に迫る問い

「日野は殖産興業とどのように関係していたのか」という問いを投げかけ、調べたことや共有したことを基に、日野市が殖産興業に果たした役割を考える。

⑤本時のまとめ

課題に対して、自分の言葉でまとめる。

- ・蚕の研究を日野の桑が支えていた
- ・日野の養蚕が殖産興業を支えていたと考える児童の姿がありました

本時での指導の流れです。

まず、前時で学習した殖産興業について振り返り、さらに日野で養蚕が盛んだったということをおさえ、「殖産興業と日野の養蚕業の関係について考えていく」という課題を設定しました。

その後、自分が選択したテーマに基づいて資料を読み取り、「日野との関わり」を主な視点としてもち、調べ学習を進めていきました。グループで対話しながら調べ学習を進め、分かったことを短冊にまとめていきました。その後、それぞれのテーマで調べたことを全体の場で共有しました。グループで短冊に書いたことを発表し、黒板に貼りながら構造的にまとめていきました。

そして、本時の課題に迫るための問いを投げかけました。「日野は殖産興業とどのように関係していたのか」について、自分が調べたテーマの学びと、全体共有で得た他のテーマの学びを関連付けて、日野が果たした役割について考えていきました。

資料に書かれていることが専門的かつ馴染みのない語句も多かったため、読み取るのが難しいようにも感じましたが、養蚕について研究する施設が日野につくられていたことや、別の地域にある蚕糸試験場に提供する桑の葉を日野で育てていたこと、またその理由が良質な桑を育てる地理的条件が揃っていたことなど、日野と関連のある内容を探ることができていました。

課題に迫る問いについても養蚕の研究や殖産興業の発展を「支える」という言葉や「日野はすごい」という発言も児童から出ていたので、郷土である日野が大きな役割を果たしたことをおさえることができた児童もいました。

成果と課題 ～成果～

郷土愛を育める教材を作成し、 授業時数の問題にも配慮した授業づくり

地域性に特化した教材ではなく、日野市内全校で扱える教材について考えた。「日野の養蚕」を第6学年社会科「明治時代の殖産興業」と関連させ、教材化を図った。単元指導計画の中で無理なく指導できるように、1時間の中で読み取り、郷土愛を育める教材を作成し、授業時数の問題にも配慮した授業づくりができた。

日野の歴史に関心をもち、郷土を愛する心情につながる、 協働的に話し合い考える授業

資料から読み取ったことを基に、協働的に話し合い考える授業を行うことで、日野市が当時の日本の養蚕を支える研究の最先端の場であったことを児童は学んだ。明治時代の産業発展への理解を深めるとともに、児童が日野市の歴史に関心をもち、郷土を愛する心情につなげることができたと思う。

Dグループの成果と課題を報告します。まず本研究の成果についてです。
成果は2点あります。

1点目は、「郷土愛を育める教材を作成し、授業時数の問題にも配慮した授業づくり」です。

地域性に捉われることなく、市内全校で扱える教材を作りました。また、単元指導計画の中で無理なく指導できるよう、授業時数の問題にも配慮して、1時間の中で読み取れる教材を作成したことで、日野市のどの学校でも取り入れやすい教材にすることができました。

2点目は、「日野市の歴史に関心をもち、郷土を愛する心情につながる、協働的に話し合い考える授業」です。児童一人一人が資料から読み取ったことを基に、協働的に話し合うことで、明治時代の産業発展に貢献した日野への理解を深めるとともに、日野の歴史に関心を持ち、郷土を愛する心情につなげることができたと考えます。

成果と課題 ～課題～

資料の改善

日野の養蚕と殖産興業との関係を捉えやすい内容や文章表記に、より精査し改善する必要がある。資料の内容や文章表記を精査し、児童が日野の養蚕と殖産興業との関係を捉えやすいように改善していく。

読み取る視点

本時の資料の読み取り時に、児童にもたせる視点を再考する必要がある。資料を読み取る際には、何が分かるとよいのか、児童に読み取りの視点をもたせる。

共有の仕方

グループごとに分かれて調べ学習を行ったが、調べたことの共有のさせ方に課題が出た。調べたことを短い時間の中でどのようにして共有していくか、ICTを活用するなどの提案も出された。読み取りが難しい資料だけに、共有のさせ方を工夫する必要がある。

次に課題です。課題は3点あります。

1点目は、「資料の改善」です。基となる資料が児童にとって難解であったため、読み取りやすいように改善を試み、平易な言葉で資料を新たに作成しました。それでも本時では、日野の養蚕と殖産興業とを関連付けて読み取りにくい部分がありました。

そこで、資料の内容や文章表記をより精査し、児童が日野の養蚕と殖産興業との関係を捉えやすいように改善していくことが求められます。

2点目は、「読み取る視点」です。本時では、資料を読み取る前に、児童に視点を提示して全体で共有し確認しました。しかし、そこで示した視点では、何を資料から読み取って考えればよいのか、児童にとって分かりづらいものであったため、読み取ったことと本時のねらいとの間にズレがありました。そのため、資料を読み取る際には、何が分かるとよいのか、児童に読み取りの視点をもたせる必要があります。

3点目は、「共有の仕方」です。読み取った内容を黒板に掲示しながら、グループごとに発表させて共有しましたが、発表し終えるまでや、他グループの内容を捉えるのに時間がかかりました。ICT 機器を活用するなどして、短時間で効率良く共有させる方法を考える必要があります。

以上で、Dグループの報告を終わります。

社会科学学習指導案

日時 令和3年11月30日 第5校時
対象 日野市立平山小学校 第6年3組28名
授業者 郷土教育推進研究委員会Dグループ
澤久保 敦

(研究主題)「郷土への愛着を高め、地域と共に生きようとする児童の育成」
～日野の新たな魅力発見!～

1 単元名 「明治の新しい国づくり」

2 単元の目標

- ・日本が明治維新を機に欧米諸国の文化を取り入れつつ近代化を進めたことについて理解するとともに、絵画・写真資料や文化財、地図帳や地球儀、統計や年表などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付ける。
- ・明治時代の近代化の特色、出来事や人物の関連や意味を多角的に考える力、その時代の社会に見られる課題を把握して、歴史を学ぶ意味を考える力、考えたことを説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。
- ・明治時代の近代化について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、日本の歴史や地域の歴史を大切にする心情を養う。

3 指導観

(1) 単元観

本単元は、江戸時代後期の黒船の来航を機に、新しい日本のあり方を考え、明治維新、文明開化に踏み込むことで、欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めていったことを理解することがねらいである。その中でも地租改正、徴兵令、殖産興業をもとにした富国強兵政策は日本の近代化を進めるための大きな一歩となった。日本の経済的発展に一翼を担った殖産興業は、外貨を獲得するために、官営模範工場である富岡製糸場を設立し、生糸の輸出量を大きく伸ばしていった。さらに養蚕の研究機関となる施設が各地に造られることとなり、我が郷土である日野市にもその役目を担うこととなったのである。明治政府が行った諸改革を追究していく中で、郷土教育の視点を取り入れて進めることで、まちの様子や人々の生活、社会の仕組みの変化に、郷土が関係していたことに迫ることができる。そうすることで歴史学習を身近なものにとらえ、さらに郷土への愛着を高められるようになると考える。

(2) 児童観

本学級の児童は、社会的事象について調べ学習を行い、意欲的に課題解決に向かう姿が見られる。6年生から始まった歴史の学習では、想像図や絵画資料、文献資料から読み取りの視点を大切にしながら自分の考えを明らかにし、課題に対して、ポイントとなるキーワードを使いながら自分なりの答えを導き出すことができている。友達と考えを共有する場面では、調べた

ことを分かりやすく説明し合うことができる一方で、様々な考えを統合して深めることが苦手な児童もいる。本学習では、自分が選択したテーマについて調べたことをグループで共有する活動を設定している。その中で、自分の調べたことと友達が調べたことを関連付けられるような話合いの場面を取り入れ、問いに対する考えを深めていけるようにしていく。そして、日野市が日本の発展のために果たした役割に気づき、郷土がもつ素晴らしさを感じられるようにしていきたいと考える。

(3) 教材観

明治政府が進めた殖産興業では、生糸の生産量を増やすために蚕業関係の研究も進められるようになった。日野市でも養蚕が盛んになり、明治29年に日野義順を社長として当時の日野町に「扶桑社」が設立された。明治44年には高円寺に原蚕種製造所が開設したことを機に、桑の葉を供給するための「日野桑園」や桑や蚕の研究をするための「蚕糸試験場」ができ、養蚕業に大きく貢献することとなった。蚕糸試験場の一部は現在「桑ハウス」という名称で歴史的意義があるものとして保存されており、日野市における養蚕の歴史を後世に語り継ぐための催しも行われている。明治政府の諸改革の中で、繊維工業を大きく発展させた富岡製糸場について学習するだけでなく、我が郷土である日野市が果たした役割についても調べることで、日野市のすばらしさに気づき、郷土への愛着を高められるようにしたいと考える。

4 単元計画

(1) 評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
①世の中の様子、人物の動きや代表的な文化遺産などについて、絵画・写真資料や文化財、統計や年表などの資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、江戸時代後期の幕府の対応から人々の思想や社会の様子が変化していったことを理解している。 ②明治時代の社会の変化について、絵画・写真資料や文化財、統計や年表などの資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、明治維新により様々な改革が進められたことを理解している。	①世の中の様子、人物のはたらきや代表的な文化遺産などに着目して問いを見出し、明治維新の様々な改革や文明開化などについて考え、表現している。 ②明治政府の殖産興業による政策と、地域の産業の発展を関連付けて捉え、地域の産業の発展が日本の殖産興業に大きく関わっていたことを考え、表現している。 ③明治維新の様々な改革や文明開化による社会の変化などを関連付けたり総合したりして、この頃の世の中の様子を考え、適切に表現している。	①明治時代の近代化について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとするとともに、日本の歴史を大切にしようとしている。

(2) 単元の指導計画 全8時間扱い

時間	主な学習活動	学習内容	主な資料	評価規準
1	明治時代と江戸時代の高輪の様子を描いた浮世絵を比較しながら調べ、新しい時代になってどのような変化があったのかを考える。	まちや人々の様子が大きく変わった背景には、政治や社会の仕組みの変化があったこと。	資料 「江戸時代の高輪の様子」 「明治時代初期の高輪の様子」	世の中の様子、人物のはたらきや代表的な文化遺産などに着目して問いを見出し、明治維新の様々な改革や文明開化などについて考え、表現している。 【思判表】(行動観察・ノート)
2	黒船来航の様子とその目的、それに対する幕府の対応や外国との条約の内容が政治や社会の仕組みに与えた影響を考え、学習問題をつくり、学習計画を立てる。	黒船の来航によって鎖国が終わるとともに、外国と不平等な条約を結び、交流が再開したこと。	資料 「黒船の来航」 「日米和親条約」 「日米修好通商条約」	明治時代の近代化について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとするとともに、日本の歴史を大切にしようとしている。 【態】(行動観察・ノート)
明治時代の新しい国づくりは、どのようなことを目指し、進められたのだろう。				
3	幕府に対する人々の不満の高まりや、新しい政治を目指す動きの強まりについて調べ、江戸幕府が倒れた経緯をつかむ。	国内の政治への不満や開国の影響によって、幕府に代わる新しい政治を求める動きが高まり、江戸幕府が倒れ、武士の政治が終わったこと。	資料 「下関砲台占領」 「大政奉還」 「戊辰戦争」	世の中の様子、人物の動きや代表的な文化遺産などについて、絵画・写真資料や文化財、統計や年表などの資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、江戸時代後期の幕府の対応から人々の思想や社会の様子が変化していったことを理解している。 【知技】(行動観察・ノート)
4	明治政府が行った諸改革によって、社会がどのように変化していったかを調べる。	明治政府が欧米諸国に学びながら、天皇を中心とした政治を進め、行政制度や身分制度を改革して社会を変えていったこと。	資料 「五か条のご誓文」 「身分制度の変化」	明治時代の社会の変化について、絵画・写真資料や文化財、統計や年表などの資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、明治維新により様々な改革が進められたことを理解している。 【知技】(行動観察・ノート)

5	明治政府が進めた富国強兵の国づくりについて調べ、政府が目指した国づくりについて理解する。	政府が地租改正や徴兵令、殖産興業によって富国強兵政策を進め、欧米諸国に追いつこうとしたこと。	資料 「徴兵令」 「地租改正」 「富岡製糸場」	明治時代の社会の変化について、絵画・写真資料や文化財、統計や年表などの資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、明治維新により様々な改革が進められたことを理解している。 【知技】(行動観察・ノート)
6 本時	日野市の養蚕業について設定したテーマに基づいて調べ、殖産興業に日野市が果たした役割について考える。	養蚕の研究機関として、日野市に蚕糸試験場や桑園が設立されたことで、殖産興業に大きく貢献したこと。	資料 「日野の養蚕」 「蚕の飼育」 「養蚕の研究」 「養蚕と経済」	明治政府の殖産興業による政策と、地域の産業の発展を関連付けて捉え、地域の産業の発展が日本の殖産興業に大きく関わっていたことを考え、表現している。 【思判表】(行動観察・グループワーク)
7	明治時代になり、人々の暮らしやまちの様子、考え方がどのように変化していったかを調べる。	西洋風の文化や考え方を積極的に取り入れ、人々の暮らしや意識、社会が変化したこと。	資料 「文明開化」 「小学校の授業風景」	明治維新の様々な改革や文明開化による社会の変化などを関連付けたり総合したりして、この頃の世の中の様子を考え、適切に表現している。 【思判表】(行動観察・ノート)
8	明治時代の新しい国づくりについての学習をまとめ、近代化がどのように進められたかを考え、学習問題を解決する。	黒船の来航による開国から、新しい政治を求める声が高まったことで江戸幕府は終わり、明治政府が設立された。そこで欧米諸国から学んで諸改革を行ったことにより、近代化が進んだこと。	思考ツール	明治時代の近代化について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとするとともに、日本の歴史を大切にしようとしている。 【態】(行動観察・思考ツール)

5 本時の指導（8時間扱いの6時間目）

（1） 本時の目標

日野市での養蚕業について設定したテーマに基づいて調べ、殖産興業に日野市が果たした役割について考える。

（2） 展開

	○学習活動 ・ 予想される児童の反応	☆指導上の留意点 ■評価の観点
導入 ⑤	○前時で学習した殖産興業について振り返る。 T：前回学習した殖産興業とはどのようなものだったでしょう。 C：富岡製糸場を作って、産業を発展させようとした。 C：日本の製糸業が発展して、生糸の生産量が世界一になったね。 ○前時で出した、日野市での養蚕に対する疑問について確認し、課題を提示する。 日野市の養蚕業は、殖産興業とどのように関係したのだろう。	☆殖産興業によって生糸の生産量が増えたことに加え、製糸の技術が全国に広まっていったこともおさえる。
展開 ⑩	○日野市の養蚕業について、グループごとに集まり、資料を使って調べる。 《調べ学習のテーマ》 A：日野市の養蚕 B：蚕の飼育 C：養蚕の研究 D：養蚕と経済 ○それぞれのテーマで調べたことについて、短冊を提示しながら発表し、全体で共有する。 T：調べて分かったことをグループごとに発表しましょう。 C：質のいい桑の葉を養蚕場に届けるために日野桑園がつくられました。 C：日野市では日野義順という人が扶桑社という会社を立てて養蚕業を進めていきました。 C：生糸は日本の輸出の60%を占めるようになりました。	☆前時で出した日野市の養蚕に対する疑問について、調べるグループを作っておく。 ☆同じテーマで集まることで、教え合いながら調べ学習ができるようにする。 ☆資料について調べて分かったことを短冊にまとめていく。 資料 A：「日野の養蚕」 B：「蚕の飼育」 C：「養蚕の研究」 D：「養蚕と経済」 ☆グループごとに発表した短冊を黒板に貼り、必要なことを補足しながら黒板にまとめていく。 ☆短冊で発表したことを総合して、児童の言葉でまとめ、黒板に残すようにする。

展 開 ③⑩	○日野市が殖産興業にどのような役割を果たしたのかをグループで話し合い、自分の考えをノートに書く。 T：日野市は殖産興業とどのように関係していたのでしょうか。 C：日野市が養蚕の研究をしたり、桑の葉を育てたりしたことにより、養蚕業が発展することになった。 C：日野市で行った研究が、生糸の生産に大きく貢献したんだね。	■明治政府の殖産興業による政策と、地域の産業の発展を関連付けて捉え、地域の産業の発展が日本の殖産興業に大きく関わっていたことを考え、表現している。 【思判表】
終 末 ⑩	○本時の課題に対するまとめをする。 日野市では、蚕糸試験場や桑園が作られたことで、養蚕の研究が進められることとなった。それは、生糸の生産量を伸ばすことにつながり、殖産興業に大きく貢献した。	☆日野市が行ったこと、殖産興業との関連について、必要なキーワードを提示し、まとめをする。

(3) 評価

- ・日野市の養蚕について、自分が設定したテーマに基づいて調べ学習を行うことができていたか。
- ・日野市の養蚕と明治政府が進めた殖産興業との関連性を考え、郷土が果たした功績について捉えることができていたか。

(4) 板書計画

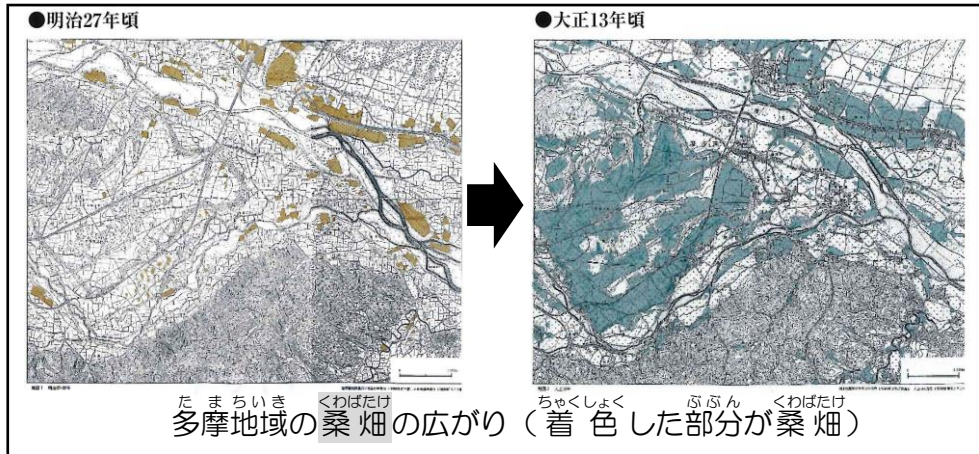
11/30 明治の新しい国づくり	
殖産興業…産業の発展を目指す。 製糸業：富岡製糸場 生糸の生産量が世界一に ⇒日野市でも養蚕業	A 日野の養蚕 B 蚕の飼育 C 養蚕の研究 D 養蚕と経済
◎殖産興業にどのように関係したのか。 ・日野市で養蚕が進められたことで、生糸の生産量が増えることになった。 ・殖産興業に大きく貢献した。	
課題 日野市の養蚕業は、殖産興業とどのように関係したのだろうか。	
まとめ 日野市では、蚕糸試験場や桑園が作られたことで、養蚕の研究が進められることとなった。それは、生糸の生産量を伸ばすことにつながり、殖産興業に大きく貢献した。	

6 授業の成果と課題（授業後に記入する）

ひのようさん A 日野の養蚕

◎日野市と養蚕ってどんな関係があるんだろう？

日野の養蚕は、1880年頃から盛んになり、1900年頃には、全耕作地の面積の約20%が桑畑（蚕のえさとなる桑を育てる畑）でした。これだけたくさん桑畑が、どうして日野にできたのでしょうか。



1911年（明治44年）高円寺に原蚕種製造所という、蚕の卵をつくる施設がつくられ、蚕の研究が始まりました。その施設にえさとなる桑の葉を届けるために、桑園をつくる必要があったのですが、その場所として選ばれたのは日野市でした。ではなぜ日野市が選ばれたのでしょうか。良い桑の葉の条件の1つが「寄生虫がつかない」ことでした。蚕が寄生虫のついた桑の葉を食べると、成虫になれず、生糸をとることができないのです。寄生虫のつかない良い桑の葉を育てるには、日当たりと風通しがよい川沿いの土地が好まれました。日野市は多摩川と浅川の2つの川に囲まれており、桑園として絶好の条件がそろっていたと考えられます。実際に日野市には3つの桑園がつけられました。

1928年（昭和3年）からは、各地で養蚕の研究が盛んになり、日野で蚕の飼育も行うようになりました。そして昭和初期、全農家に対する養蚕農家の割合は、日野を含む南多摩郡が64.8%で、多摩地域で1位となるほどでした。その後戦争によって養蚕農家は減っていきませんが、原産種製造所が研究施設として筑波に移転するまで、日野市は桑の葉の生産と養蚕がさかんな場所として発展したといえるでしょう。現在桑園の一部は「桑ハウス」という名前で国登録有形文化財として大切に保存されています。



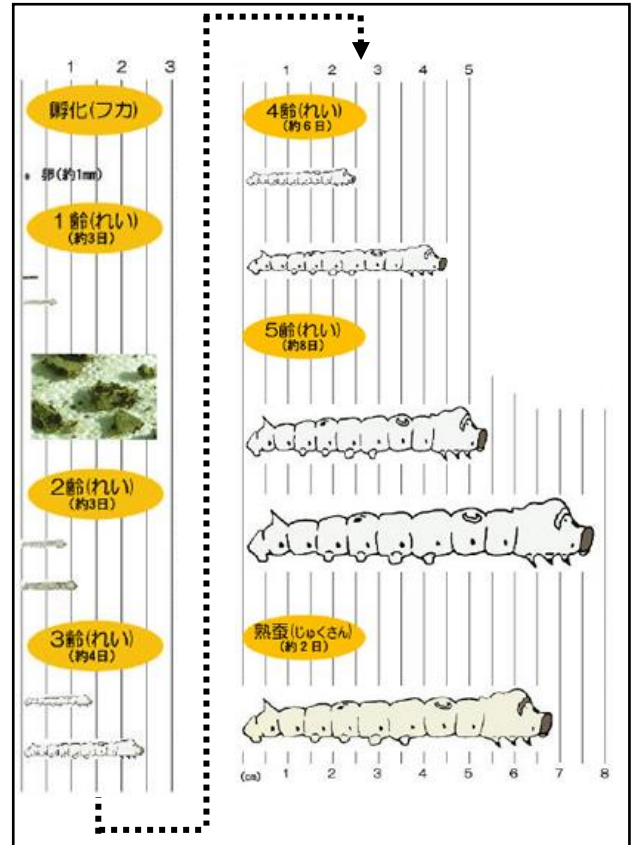
B かいこ しいく 蚕の飼育

◎蚕の育て方やよく育つための条件ってなんだろう？

かいこ そだ かた 《蚕の育て方》

かいこ ようちゅう くわ は かいこ は いがい
蚕の幼虫のえさは桑の葉です。桑の葉以外
では、立派な繭をとることができないので、蚕
を育てるには桑の葉を確保することがとても
重要です。桑の葉は、川風がふく川沿いの土地
で良く育ちます。日野市は良い桑がとれるため、
桑のさいばいや養蚕がさかんでした。

かいこ ちい こころ くわ は こま きざ
蚕が小さい頃は、桑の葉を細かく刻んで与え
ます。蚕が大きくなると桑の葉を荒く刻み、4
齢からはそのまま与えます。その後は、藁など



でつくったマブシと呼ばれる繭作りの場所に移します。移された蚕は、盛んに糸を吐いて



マブシ

まゆ つく きいと まゆ なか かいこ
繭を作ります。生糸がとれるのは、繭の中の蚕がさなぎになっ
てからです。マブシの中から繭を集めて、余分な糸やごみを取
り除いて出荷します。出荷された繭は、製糸工場で生糸となり、
海外に多く輸出されました。

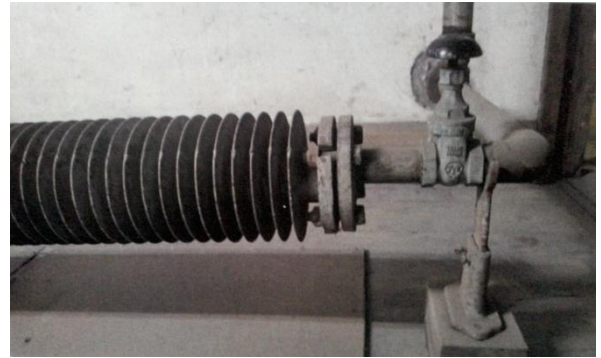
しいくかんきょう 《飼育環境》

かいこ しいく いる おお くふう おこな いぜん しぜんかんきょう なか そだ
蚕の飼育は、古くから多くの工夫が行われました。以前は自然環境の中で育てていま
したが、かいこ せいちょう すみび かりよく つか さんしつ
蚕の成長をよりよくするために、炭火などの火力を使って蚕室を温めるようにな
りました。さんしつ おんど たか しっぱい おんど かんり じゅうよう
蚕室の温度は低すぎても高すぎても失敗してしまうので温度の管理は重要です。

実は日野市にも、ようさん さんしつ
養蚕の研究をするための蚕室がありました。そこでは、はじめはかろ
(すみび せつび
炭火によって温めるための設備)を使っていましたが、後に電気式のたんぼうせつび くうちょうき
暖房設備や空調機が
導入され、さんしつない かんきょう
蚕室内の環境をコントロールしていたそうです。



現在も大切に保存されている日野の第一蚕室 だいいちさんしつ



蚕室を温めるための暖房設備 さんしつ たんぼうせつび

◎養蚕についてどんな研究がされたんだろう？

【研究のはじめ】

1874年（明治7年）、ヨーロッパで蚕業に
ついて学んだ佐々木長 惇は、日本でも蚕業の研
究と教育が必要であると感じ、政府へ研究機関
の設立を提案しました。



さ さ き ちやうじゆん さん む ちんどう
佐々木長 惇と『蚕務問答』

そこから、東京に蚕業試験場という研究機関ができました。他に教育機関として、東京と京都
に蚕業講習所ができ、蚕業についての講習や蚕種（蚕の卵）の配布などが行われるようにな
りました。

1916年（大正5年）には、北多摩群立川村（現在
の立川市）に東京府原蚕種製造所（蚕の卵をつくる
施設）ができ、蚕や桑についての試験が行われまし
た。



【日野の養蚕研究 扶桑社】

明治になり、生糸が日本の輸出の中心となってくると、日野でも
養蚕がさかんになったことで、養蚕について研究をしたり学んだり
する場が必要となりました。

こうして1896年（明治29年）、日野義順が社長となり、日野町
に扶桑社が設立されました。



ひ の ぎじゆん
日野義順

ふそうしゃ ようさん けっしや ふそうしゃ
扶桑社は、養蚕について学ぶための結社でした。扶桑社で

は、まゆ さんしゅ かいこ ぐ かいこ
繭や蚕種、蚕具の発明などが発表されたり、毎日蚕の

しいくかんきょう ようさんにっし
飼育環境を点検するための『養蚕日誌』が出されたりしまし

た。後に、このような日誌は養蚕農家に広まり、マニュアル

として利用されるようになりました。こうした動きが殖産



ようさんにっし
養蚕日誌

こうぎょう
興業を地域から支えることにつながっていったのです。当時の日野の人たちがどれだけ

けんきゅうねっしん
研究熱心だったかがうかがえます。



今も残る日野の桑園（桑ハウス）

その後、日野には、ふぞく ひ の そうえん
付属日野桑園が置かれました。こ

こでは、くわ さいばい
桑の栽培だけでなく、ようさん
養蚕に関する様々な研

究がされるようになり、多くのせいか
成果を上げました。

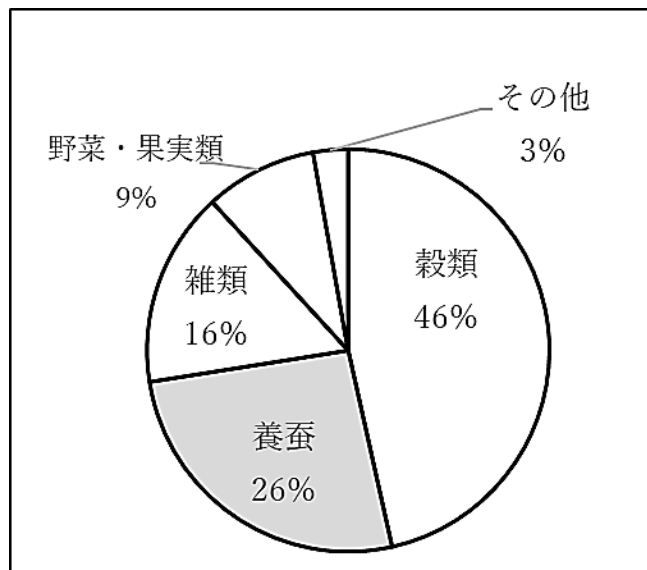
D ようさん けいざい 養蚕と経済

◎養蚕ってお金になるものだったのかな？

養蚕業は江戸時代から栄え始めました。経済が発展したことで、あらゆる立場の人々が絹（生糸から作られる布）を消費するようになり、各地で養蚕業が行われるようになりました。特に、1859年、横浜が開港されると、質の良さや価格の安さで日本の生糸が最重要の輸出品となりました。

明治時代に入ると、「富国強兵」・「殖産興業」に必要なお金を獲得するために生糸産業は最重要産業と期待されました。上質な生糸を作るための模範工場として富岡製糸場がつくられ、品質や生産量を高めていきました。そして、生糸の輸出は日本の総輸出額の60%を占めるほどになり、1909年（明治42年）には、生糸の輸出量は世界一となりました。その後、輸出量は急激に増加し、1930年代には世界全体に輸出された生糸の80%を日本産が占めるまでになりました。

明治10年代の日野では、繭を農家で糸にして、八王子の織物業者へ販売していました。この頃の農家の収入に養蚕が占める割合は、桑の販売収入も含めて全体の約35%を占めていました。後に、戦争の開始によって生糸産業が衰退したことで、日野でも養蚕は行われなくなってきましたが、明治後期から昭和初期にかけては養蚕が盛んで、農家にとって貴重な収入源でした。



1902年（明治35年）日野町農家の農業収入
※グラフでは養蚕は26%ですが、桑の葉の販売収入（野菜・果実類に含まれる）もあるため、約35%になります。

V 1 課 2 館との連携

1課2館との連携

ふるさと文化財課 図書館 中央公民館

- 毎回の委員会にメンバーとして参加
- 授業づくりのための情報や資料提供
- 夏季研修会への協力



フィールドワークの付き添い



見学先での解説者



午後の研修会の講師

1 課 2 館との連携について御紹介します。1 課 2 館とは、今年度 4 月に発足したふるさと文化財課に加えて、図書館、中央公民館のことです。

毎回の委員会に委員として参加し、授業づくりのための情報及び資料を提供していただきました。また、夏季研修会では、ふるさと文化財課の学芸員さんが、フィールドワークの付き添いや、見学先での説明や、午後の研修会の講師を務めていただきました。そのおかげで、日野の歴史に対する教員の理解が深まり、「子供たちへの授業につなげたい。」との思いが高まりました。

ふるさと文化財課による出前授業



縄文土器の展示を見学



縄文土器の洗浄体験

- 数千年前の風習や技術の話が印象に残った。
- 土器の水洗いでいろいろな模様があり面白かった。



縄文土器の模様の付け方を学ぶ



縄文土器の接合体験（1 月）

ふるさと文化財課は、今年度 4 月からスタートした日野市役所の新たな部署です。これまで個別や点でとらえてきた文化財や郷土資料を面でもとらえて、「まちの物語」として日野に暮らす人々の日野への愛着を高めたり、子供たちのふるさと学習につながるようにと考えて活動をしたりしています。

1 2 月には、学芸員が出前でわかば教室を訪れ、市内から発見された縄文土器の説明をしたり、子供たちの土器水洗い体験などを指導したりしました。子供たちからは、「数千年前の人々の風習や技術が心に残った」「土器を水洗いして、いろいろな模様が見られて面白かった」などの感想がありました。

1 月には、土器の破片を接合して元の形に復元していく体験活動を行いました。皆、興味津々で取り組んでいました。

VI 研究の成果と今後の課題

研究の成果と今後の課題

成果

- 子供たちに郷土への関心や愛着を育てる授業を工夫できた。
- 第 3 次日野市学校教育基本構想の切り口で研究を進めることができた。
- 委員自身が課題をもち、コースを決めて取り組んだフィールドワークで、学びが深まった。

課題

- 一度の実践で終わらせず、これまでの実践をさらに育てるための研究をする。
- どの学校、どの学年、どの学級でも郷土教育に取り組めるように、年間指導計画例を作成し提示する。
- 夏季研修会の持ち方を工夫・改善する。

研究の成果と課題について述べます。

成果としては、「子供たちの郷土への関心や愛着を育てる指導の工夫で、研究主題に迫ることができた」「子供たちの問いを、子供たちなりの方法で答えにたどり着くというような第 3 次日野市学校教育基本構想の切り口で研究を進めることができた」「委員自身が課題をもってコースを決めて取り組んだフィールドワークは、大きな学びに結び付いた」ということが挙げられます。

また、今後の課題としては、「今年度行った授業や以前に開発した実践をそれで眠らせずに、さらに磨きをかけていきたい」「どの学校、どの学年、どの学級でも郷土教育に取り組めるようにするために、年間指導計画例を作成する」「実施時期や主体的な研修の方法など、夏季研修会の持ち方をさらに工夫・改善する」ことがあります。

Ⅶ 郷土教育の推進

1 若手教員(1 年次) 育成研修の支援

若手教員(1 年次) 研修への協力



フィールドワークの感想を交流



清野 元郷土資料館長と
金野ふるさと文化財課長による講義

- 児童に日野市の魅力を伝えていきたい。
- 日野出身でないからこそこの研修を行えてよかった。

教育委員会が実施する若手教員(1 年次) 夏季課題別研修の実施をお手伝いしました。郷土教育推進研究委員会の夏季研修会と同日に、午前中は日野宿フィールドワークを行い、午後は講師による「新選組と日野煉瓦」や「日野の養蚕」といった講義を聞きました。日野市が初めての教員が多く、興味をもって見学したり、メモを取りながら真剣に講師の話を聞いたりしていました。

コロナ禍のため、これまで言葉を交わす機会がなかった若手教員同士が、初めて交流する場にもなりました。参加者からは、「児童に日野市の魅力を伝えたいと思った」「日野の出身でないのに、この研修がとても勉強になった」などの声が聞かれました。

2 平山陸稲栽培

わかば教室の陸稲栽培体験学習



6月14日 田植え



手製の案山子と稲穂



足踏み式脱穀機



電動籾摺り機

- 田植えは泥に手を突っ込むのが気持ち良かった。
- 陸稲は香ばしく、プチプチとした食感だった。

わかば教室の子供たちが平山陸稲づくりに取り組んで3年目になりました。

子供たちが種籾をまいて苗を作りました。6月に田植えをしたときは、細く小さくて頼りない感じでした。その後、水やりや見守りを通して順調に生育し、出てきた稲穂は、平山陸稲の特徴である、紫色の長い禾をもっていました。10月に稲刈りをし、12月に脱穀体験をしました。子供たちは進んで働きました。翌日に精米をして試食しました。

学習を振り返り、「田植えのとき、泥に手を突っ込むのが気持ちよかった」「陸稲を初めて食べたけど、香ばしくてプチプチとした食感だった。おいしかった」などの感想を書いていました。

【陸稲栽培暦】

作業、活動等	内 容	R3 年度	備 考
種の選別	真水に浸けて沈んだ種を選ぶ	5 月 7 日	
浸種	10~15℃の真水に浸ける	5 月 7 日~	
苗床準備	浅いコンテナボックスに極小赤玉土、水	5 月 7 日	N8P8K8 肥料入
播種	苗床に均一にばらまく	5 月 10 日	1 週程度で発芽
水やり	水が減ってきたらつぎ足す		汲み置き温めた水
田植え準備	深いコンテナボックスに黒土 7 分目、水	6 月 10 日	肥料を混ぜ代掻き
田植え	苗 2~3 本を束にし、ボックスに 25 か所	6 月 14 日	鉛筆持ちで深植え
追肥	コンテナボックスの土の上にばらまく	7 月 13 日	水遣り、病虫害監視
追肥	//	8 月 13 日	8.10 頃に出穂
かかし立て	わかば教室の子供が自作して立てる	9 月 13 日	
支え作り	稲が倒れぬよう四隅に支柱、横棒を渡す	9 月 15 日	もっと早目が良い
水切り	水やりを止め、米を熟成させる	9 月 15 日	
稲架(はさ)の準備	干すための横棒、鳥よけのネット設置	10 月上旬	
稲刈り	刈り取って束にし、稲架にかけ干す	10 月 20 日	鎌は郷土資料館
脱穀、籾摺り、精米	千歯こき、脱穀機、籾摺り機、精米機で	12 月 15 日	機械は郷土資料館
試食	家庭科室で炊飯、白米と食べ比べ	12 月 16 日	子供たちの感想

3 図書館の活動

『ほどくぼ小僧 勝五郎生まれ変わり物語』を活用したブックトークの実践

中央図書館 佐野綾香

1 はじめに

図書館は郷土に関する資料や情報を収集・保存し、提供する役割を持っている。

中央図書館 2 階には、郷土資料を収集している「市民資料室」がある。今春、中央図書館に
来館した小学校 3 年生から「日野市の都市伝説を知りたい」というレファレンスを受けた。都
市伝説ではないが、不思議な昔話も収録されている『日野の歴史と文化 第 17 号・第 18 号
日野の昔話特集号 1・2』（日野史談会 1982 年/1983 年）や『新編日野百物語』（日野宿
発見隊／編 日野宿発見隊 2018 年）を紹介したところ、熱心に読み借りていった。そこで、
今年度から開催している「たかはたブッククラブ」で、日野の昔話を取り入れたブックトーク
を行うことにした。数ある昔話の中で、今回は勝五郎の生まれ変わり物語を取り上げることに
した。

2 「ブックトーク」及び「たかはたブッククラブ」の概要

（１） ブックトーク

特定のテーマのもと、数冊の本を順序立てて紹介すること。本に対する興味や、子どもの「読
みたい」という気持ちを引き出すことを目的とする。

（２） たかはたブッククラブ

令和 3 年 5 月より、高幡図書館で月に 1 回行っている小学生向けの会。書庫ツアーや本探し、
ブックトークなど毎回活動内容は異なる。3 か月を 1 期とし、期ごとに参加者を募集する。

3 勝五郎の生まれ変わり物語の概略

文政 5 年（1822）、中野村（八王子市東中野）に住む 8 歳の勝五郎が、「自分の前世は程久保
村（日野市程久保）の藤蔵で、6 歳の時に疱瘡で亡くなった」と家族に語った。程久保村のこと
を知っている人に聞いてみると、藤蔵の家は実在し、疱瘡で亡くなった子どもがいることもわか
った。文政 6 年（1823）、勝五郎と祖母が程久保村の藤蔵の家を訪ねてみると、勝五郎は行った
ことがないはずの程久保村の事をよく知っていて、祖母を藤蔵の家に案内した。勝五郎を見た藤
蔵の母と義父は、藤蔵によく似ているとあって喜んだ。藤蔵は、文化 7 年（1810）に亡くなっ
ていた。勝五郎は、初めて来たはずの家の中の事もよく知っていてみんなを驚かせた。

勝五郎の生まれ変わりは、当事者が実在し、生没年や住んでいた場所、関係人物などが全ては
っきり分かっているという点で、世界でも珍しい生まれ変わり話だといわれている。

<参考資料>

- ・『ほどくぼ小僧・勝五郎生まれ変わり物語 日野市郷土資料館特別展』
（日野市郷土資料館 2008 年）
- ・『ほどくぼ小僧生まれ変わりの勝五郎（解説リーフレット子ども版）』
（叶内匡子／絵 勝五郎生まれ変わり物語探究調査団／文 日野市郷土資料館 2016 年）
- ・『ほどくぼ小僧・勝五郎生まれ変わり物語調査報告書 勝五郎生誕二百年記念』
（勝五郎生まれ変わり物語探究調査団／編 日野市郷土資料館 2015 年）

4 実践内容

たかはたブッククラブ第 1 期の第 2 回（令和 3 年 6 月 2 日開催）で、「うまれかわる・よみ
がえる」というテーマのもと、ブックトークを行った。参加した小学生は 6 名。

に勝五郎の生まれ変わり物語につなげていった。この物語は、人気シリーズ『怪談レストラン』の『生まれ変わりレストラン』の巻でも取り上げられているため、そこで関心を寄せていた児童もいた。子どもたちは終始興味を持って聞いてくれていた。会の中で『ほどくぼ小僧 勝五郎生まれ変わり物語』（日野市郷土資料館／制作著作 日野市郷土資料館 2009年）のDVDも視聴した。終了後、DVDを借りていった児童もいた。



『ほどくぼ小僧 生まれ変わりの勝五郎』
 絵 叶内 匡子
 文 勝五郎生まれ変わり物語探究調査団

ブックトークで紹介した本の一覧

1	『へんしんおたまじゃくし』	福山 欣司／監修 ひさかたチャイルド 2007年
2	『かなへび』	竹中 践／ぶん 石森 愛彦／え 福音館書店 2020年
3	『うらしまたろう』	おざわ としお／再話 かないだ えつこ／絵 くもん出版 2016年
4	『はるかな国の兄弟』	アストリッド・リンドグレーン／作 岩波書店 2001年
5	『ほどくぼ小僧生まれ変わりの勝五郎』（解説リーフレット 子ども版）	叶内匡子／絵 勝五郎生まれ変わり物語探究調査団／文 日野市郷土資料館 2016年
6	『生まれ変わりレストラン』（怪談レストランシリーズ29巻）	怪談レストラン編集委員会／編 童心社 2003年
7	『新編日野百物語』	日野宿発見隊／編 日野宿発見隊 2018年
8	『日野の歴史と文化』 第17号 日野の昔話特集号1 第18号 日野の昔話特集号2	日野史談会 1982年 日野史談会 1983年

5 広がり

図書館では、小中学生の夏休み期間中に、通常のおはなし会とは内容を変えた「夏休み特別企画」を全館（市政図書室を除く）で実施している。たかはたブッククラブでの実践をふまえて、今夏は「ちょっとふしぎな本」をテーマにしたブックトークを行った。紹介した本は各館で異なるが、全館共通で最後に『ほどくぼ小僧 勝五郎生まれ変わり物語』のDVDを視聴した。

また、他市での図書館サービス研修会に職員が講師として参加した際、本事例を紹介した。地域資料を活用したブックトークというのは珍しく、他市職員も興味を持っていた。

これからも、地域資料と子どもを結びつける取り組みを模索していきたい。

テーマ

うまれかわる・よみがえる①

本の名前

へんしんおたまじゃくし

ひとくちメモ

本の名前

かなへび

ひとくちメモ

本の名前

うらしまたろう

ひとくちメモ

本の名前

はるかな国の兄弟

ひとくちメモ

本の名前

ほどくぼ小僧生まれ変わりの勝五郎

ひとくちメモ

VIII 夏季研修会講師の言葉

日野宿フィールドワークから「教材化の視点や方法を学ぶ」

日野市立教育センター郷土教育推進研究委員会顧問 小杉博司

1 郷土教材発掘フィールドワークから授業を構想する

「地域は教材」「地域は教室」「地域は先生」「地域は家族」と言われている。地域は、いつでも、どこでも、誰でも先生であり教室である。子供にフィールドワーク(見学・調査)を体験させ、自ら発掘した教材で授業をすると、よくわかる、楽しい授業が創造できる。子供達もわくわくドキドキ感をもって学ぶことができ、子供同士の学び合いも深まり学力向上につながっていく。

日野市は教材の宝庫である。まず、教師が地域のよさや課題を知り、どのようなねらいで、どのような教科・総合的な学習の時間等で教材化するか、フィールドワークを核とした授業構想を持ちたい。

2 指導計画にフィールドワークと郷土教材を位置付ける

(1) 本日のフィールドワーク

コロナ禍で密を避けるため、小グループに分かれ、グループごとにコースを決定した。「新選組」「本陣」「日野用水」「蚕糸試験場」「大昌寺」「八坂神社」「日野宿交流館」を選ぶグループが多かった。少数だが「宝泉寺」「坂下地蔵」「日野駅」「一小・一中の跡地」「伝説や昔話」「日野煉瓦」も選ばれた。

(2) 授業を構想する

授業で活用したい教材に出会ったら、どのような授業がしたいのか、どのような授業ができるのか考えてみる。次に、その授業が、どの教科・総合的な学習の時間等でできるのか、何学のどの「単元」でできるのか、どのような「ねらい(目標)」を設定するのか考え授業を構想する。授業は、意図的・計画的に実施するもので、明確な「ねらい(目標)」を設定し、問題解決的な授業を構想する。郷土教材を活用するにあたって、独立した単元を作るのか、既成の指導計画に位置付けるのか、ワンポイントで取り上げるのか、子供・学校・地域の実態に応じた活用方法を考える。

(3) 指導計画を作成する

指導計画も問題解決型で、導入は「学習課題を設定する」、展開は「学習課題を追究する」、まとめは「学習課題を達成する」が基本である。まとめの段階では、必ず「ねらい(目標)」を振り返ることが必要である。子供の実態・変容を評価し、時には指導計画を変更することもある。問題解決型の学習は、特に導入場面が大切である。子供に興味・関心と課題意識を持たせ、追究意欲へとつなげる。日々の授業で、子供に問題解決学習に慣れさせ、課題発見力、調べる力、まとめる力を育成する訓練が必要である。

また、本委員会の特色は、博物館学芸員・図書館司書・公民館職員と連携・協力した授業づくりである。地域の人材や社会人講師の活用も重要である。以上の地域の教育力やフィールドワークを取り入れた指導計画を作成することが重要である。

3 教材化の事例

(1) 地図の活用

日野駅東口を出たところに日野宿発見隊設置、今尾恵介氏製作の日野宿の案内図(イラストマップ)がある。初めて日野に来た観光客は、この地図を見て見学したい場所を確認し、どのコースを通るか作戦を立てる。子供も地図が大好きであり、地図の活用は、子供が課題設定したり、見学・調査活動の作戦を立てたりするときに役に立つ。国土地理院発行の地形図は、新旧の地図を比較することにより、子供が変化に気付き、疑問(課題)を持ち、学習計画を立てることができる。

(2) 伝説・昔話の活用

野宿四谷地区(栄町1・2丁目)には「ウナギ」を食べない人々がいる。大雨で多摩川が決壊しそうになった時、堤防のひびや開いた穴へ無数のウナギが潜り込み洪水を防いだ。四谷の人々

にとってウナギは「神様の使い」「村の守り神」で、感謝の心でウナギを食べないのである。村の鎮守「日野宮神社」の「虚空蔵菩薩」の衣の袖には、菩薩の召使としてウナギが絡みついている。長い間、村人は悲参な体験をし、苦労してきた。村人の思いや願い込めて「ウナギ伝説」が生まれたと考えられる。日野市洪水ハザードマップを重ねてみると、ウナギを食べない四谷地区と浸水危険地域は見事に一致する。幕末、多摩川の洪水で「日野の渡し渡船転覆事故」「土方歳三の生家流出」事故も同様である。日野は「伝説のふるさと」「伝説の宝庫」と言われる。皆さんの勤務校の周辺にも必ず伝説・昔話が残っている。背景にある歴史を調べ、先人の思いや願い、苦労を考えたい。本日のコースには、宝泉寺の「持上げ観音」「金丸の墓」、八坂神社の「筆塚」北原の「トンガラシ地蔵」等の昔話・伝説があり、幼稚園、小・中学校教材として有効である。

(3) 地名の活用

新旧の地図を比較してみると、昔からある地名、新しく生まれた地名に気付く。地域の変化や歴史が分かる。地形図を見ると、地形・自然を意味する地名に気付く。子供たちは地図帳の「地名探し」に夢中になり、地名の意味や事象を理解していく。地名を教材化することにより、子供が地域を見直し愛着をもつことができる。これは郷土教育のねらいである。日野宿では、「四谷」「東光寺」が「栄町」「新町」に変更された。しかし、古い地名は、学校名、公園名、バス停名、橋名に残っていることが多い。「地名」は、子供にとって最も身近な郷土教材である。市内に「一里塚公園」「雨乞公園」「かくれ穴公園」「ちょうまんびら公園」「潤徳橋」「たばこやばし」等の地名がある。地名の教材化により、フィールドワークの楽しさが倍増する。明確なねらいをもって、教材化に挑戦したい。

(4) 日野の文化財を世界遺産に

① 旧農林省蚕糸試験場日野桑園第一蚕室と富岡製糸場

旧農林省蚕糸試験場日野桑園第一蚕室(通材桑ハウス)が日野市初、国登録有形文化財に平成29年6月28日に登録された。明治44年(1911)に杉並の高円寺に蚕糸場の本場が開設され、日野の万願寺桑園が設けられた。その後、現在の仲田の森蚕糸公園一帯に支場として、日野桑園が設けられた。第一蚕室は、昭和7年(1932)に建設された。日本の近代化の象徴とも言われる桑や蚕に関する研究施設であった。「日露戦争はカイコで勝った!」と言われるほど、日本の輸出額のトップは生糸で外貨を稼いでいた。生糸は、幕末の開港から、太平洋戦争後昭和30年頃まで輸出額の第1位であった。残された第一蚕室は、世界遺産富岡製糸場と共に価値ある文化遺産である日本の養蚕、富岡製糸場、そして日野の蚕糸試験場について調べ、発表し、国内外に訴えていくことで、世界遺産登録への道が開けてくる。

② 中央線多摩川鉄橋と東京湾を渡る高輪築堤

明治22年(1889)11月、中央線の前身となる甲武鉄道が新宿・八王子間で開通した。日野駅は翌明治23年1月6日に開業した。中央線多摩川鉄橋の橋台は、日野で焼かれた「日野煉瓦」が使われ、今も当時のまま現役で上り線路を支えている。令和元年(2019)の台風19号で、大正15年(1926)8月に開通した「日野橋」は破損したが、日野煉瓦の多摩川鉄橋は無傷であった。令和2年(2020)、高輪ゲートウェイ駅周辺再開発工事現場から、明治5年(1872)鉄道開通時の遺構が出土し、整然と積まれた石垣や築堤は150年間健在で、当時描かれた錦絵と一致する。海を渡るように見える築堤上の蒸気機関車は、明治維新後の文明開化の象徴である。多摩川鉄橋と高輪築堤は、明治初期の鉄道遺構、土木技術を知る上でも重要で、世界遺産として保存・活用されるべき文化財である。授業から世界遺産登録に向けて発信したい。

4 日野宿発見隊の成果を活用する

「日野宿発見隊」は、日野図書館と連携した市民組織である。明治・大正・昭和時代のお宝写真を多数収集している。写真集や絵本・昔話集を発行している。今尾恵介氏による日野駅開業130年記念講演やデジタルスタンプラリーin 日野宿の映像をHPで公開している。是非、活用してほしい。

フィールドワークと夏季研修会に参加して

前郷土教育コーディネーター 清野 利明

令和3年7月28日（水）、夏季研修会の午前中は、若手教員の皆さんに、日野一中の南東隅にあるポケットパークで、甲武鉄道（JR中央線の前身）の建設とそれを支えた日野煉瓦の繋がりを語った。

「今から130年前、新宿駅から八王子駅までの甲武鉄道は、多摩地域の近代化だけでなく、甲信地方への窓口を開く意味で大きな役割を果たした。一連の鉄道建設の折、日野人は、煉瓦工場を建設し、製造した煉瓦を立川駅から八王子駅間に供給し、その後の日野駅の誘致に結び付けることに成功した。子供たちに、多摩地域の近代化の礎を支えた日野煉瓦とそれを造り出した日野人の働きを、多摩川鉄橋の橋脚など現存する日野煉瓦構造物を観ながら伝えることが大切なことである。」

グループ毎で見学に来る若手教員の皆さんは、初めて見聞きする日野の郷土史を、全て吸収しようとする生き生きとした目をしていました。



若手教員を前に講演する筆者

午後は研修会。金野ふるさと文化財課長と共に、日野の郷土教育を学ぶときのポイントを話した。江戸時代の新選組から明治近代化、鉄道建設と煉瓦、そして養蚕を、日野の地勢や当時の社会状況を踏まえながら、日野人の「風」を感じて子供たちに伝えていくことの重要性を語った。

今、私は、山手線の高輪ゲートウェイ駅の西側で、遺構の発掘調査を手伝っている。日本で始めて鉄道（東海道線）が開通した新橋駅～横浜駅間の一部で、海上を蒸気機関車が走るための築堤の調査現場に居る。日野の6年生は、社会科の教科書（166頁）「8 明治の新しい国づくり」という単元の冒頭に鮮やかな絵を目にするだろう。「明治の初め（1872年）の品川の様子」という錦絵である。海の中、石垣の堤の上を、おもちゃの様な汽車が煙を上げて走っている。その堤の真只中を調査し、150年前のイギリス人の鉄道技術者や、作業に当たった日本人の職人と日々会話をしながら、築堤のこと、鉄道のことを考えている。



築堤の上を走る汽車（錦絵）

最後になりますが、日野の郷土の歴史＝日野人の風を感じるには、『歩こう 調べよう ふるさと七生』を携えて市内を歩いてください。多摩川、浅川、日野台地、段丘、沖積地、そして南側は多摩丘陵が占めている。この多様な地勢が織り成す錦の様な郷土日野を子供へ物語るのは、先生です。

朝日新聞の「折々のことば」で、ある絵本作家が、「人生、そこらあたりが問題なんだよね」と共感的に返された言葉を引き、共に考えてくれる大人が近くにいと一歩前に進めると述べていました。

いつも、子供と一緒に考える先生であってほしいと願います。

夏季研修会「国登録有形文化財 旧農林省蚕糸試験場日野桑園第一蚕室」について
日野市ふるさと文化財課 秦哲子

1. 日野桑園の現地を歩く

日本の近代化を支え続けた養蚕。かつて市民の森スポーツ公園と仲田の森蚕糸公園・仲田小学校の地には、旧農林省蚕糸試験場日野桑園があり、桑と蚕の研究をしていました。

広大な桑園だった所は、市制 50 周年記念事業として蚕糸の会日野・桑の会・仲田小学校・市民らによって整備された「桑見本園」や「市民の森スポーツ公園」になり、スポーツ公園の一角には、蚕糸試験場日野桑園関係者等によって昭和 63 年（1988）に建てられた「蚕糸研究ゆかりの地」碑があります。

仲田の森蚕糸公園・仲田小学校の所には、庁舎をはじめ、冷凍実験室・網ガラス室・第一蚕室・第二蚕室・第五蚕室・第六蚕室・温湿度調整蚕室、蚕種冷蔵室、桑種子採取室等の研究施設や職員宿舍等が立ち並んでいました。現在は、国登録有形文化財として保存修理工事がなされた第一蚕室を見ることができますが、その他にも、庁舎の基礎が半分残っていたり、かつて建物があったことを示す痕跡（樹木の配列等）から、第二蚕室や第五蚕室・第六蚕室・宿舍 16・第 1 寮について規模を推測することができます。



蚕糸試験場日野桑園（白枠部分）

国土地理院撮影空中写真（1974 年撮影）を加工

2. 第一蚕室から見た日野桑園の姿

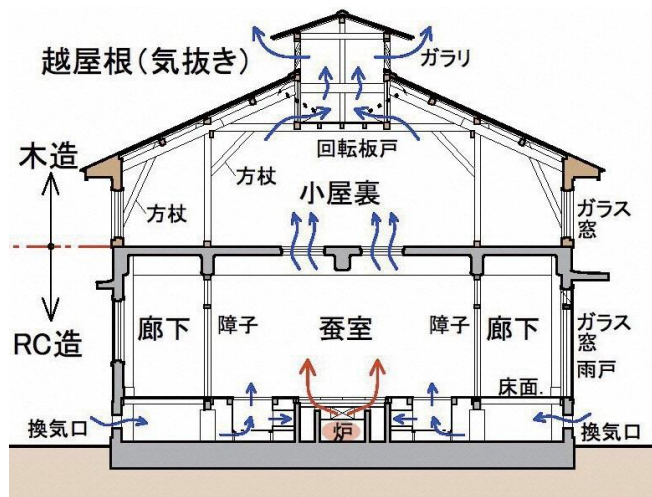
第一蚕室は、明治以来の典型的な蚕室を踏襲しながらも、鉄筋コンクリート造（1 階）と木造（2 階）の混構造で、陸屋根に縦長窓の外観を持つ、古くて新しい「モダン蚕室」といえます。

内部は西から、半地下式の桑貯蔵室、作業室（調桑室）、火起室、15 畳相当の 5 部屋の蚕室、事務室があり、蚕室の南北には、太陽光や外部の温湿度が直接蚕室内に影響しないよう廊下が配されています。



保存修理工事がなされた第一蚕室

蚕室 3 号室を見ると、壁には蚕棚に蚕箔を出し入れした跡があり、蚕架の固定金具や蚕架を置いた跡が遺っています。蚕室での蚕の飼育は、聞き書きによれば「蚕棚は片面 6 列（柱を挟んで 3 列ずつ）、1 棚あたり 8 段分に蚕を飼った。1 枚の蚕箔に 1 対の親から生まれた蚕（「一蛾区」といい、約 400 頭）をのせて育てた。」とあることから、第一蚕室における蚕の最大収容量は $400 \text{ 頭} \times 8 \text{ 枚} \times 6 \text{ 列} \times 2 \text{ 面} = \text{約 } 38,400 \text{ 頭}$ で、それが 5 部屋なので、約 192,000 頭の蚕を飼育できた蚕室であったことがわかります。蚕の飼育は年間 3 回やり、春は 8 割、夏・秋は 5 割飼育していました。第一蚕室では、優良な品種を創出するための研究として、突然変異種系統の蚕を大量に育てていたということです。



蚕室内の空気の流れ（断面図）

（天窓）から屋根の気抜き（越屋根）へ空気が抜けていく仕組みとなっていました。また蚕室内には、昭和 40 年代に使用された温水暖房で使用した放熱器が遺されており、蚕室の暖房設備の変遷を追うことができます。

蚕室内は蚕の出す二酸化炭素や蚕糞、残った桑から発する空気で汚れており、また蚕の育ち具合に適した温・湿度の管理が必要であったため、蚕室内は、吸気口と火炉、和紙が二重に貼られた太鼓貼の欄間と障子戸、天井に空いた窓（天窓）、屋根の気抜き（越屋根）によって、空気の流通と温湿度がコントロールされていました。蚕室基礎にある換気口から取り入れた新鮮な空気を床下ダクトの吸気口から取り込み、一部は蚕室内へ、一部は火炉へ送り、火炉で温められた空気が蚕室内の温湿度を調整し、対流を起こすことで、天井に空いた窓

3. なぜ日野に蚕糸試験場附属の桑園が設置されたのだろうか？

最後に、日野に蚕糸試験場附属日野桑園が設置された理由について考えてみましょう。

はじめに日野桑園が置かれたのは、万願寺渡船場の隣接地にある「源兵衛島の桑園」（万願寺一丁目。後の第二桑園）でした。明治 44 年（1911）、原産種製造所（蚕糸試験場の前身）が設置されるにあたり、製造所付近の桑ではカイコノウジバエの卵（注 1）が付いているため、多摩川沿いに原蚕種製造所の付属桑園の候補地を探していました。そこで白羽の矢が立ったのが日野でした。

日野は多摩川と浅川に挟まれているため（中でも「源兵衛島」は地名があらわす通り、もとは旧河道と砂礫地に挟まれた場所であったため）川が通りやすく、河原沿いの桑園ではカイコノウジバエがつきにくい良質な桑（注 2）をとることができました。

交通面では、日野には明治 23 年から日野駅があり、明治 44 年当時、原蚕種製造所の最寄りであった中野駅から鉄道で往復しやすい場所でした。また日野には甲州街道が通り、日野の渡しを利用すれば多摩川左岸に出ることができ、青梅街道に面していた原蚕種製造所に新鮮な桑を運ぶことができる範囲にあったと考えられます。こうして選ばれたのが日野でした。旧農林省蚕糸試験場日野桑園第一蚕室は、日本の近代化、日野の近代化を語る貴重な文化財です。ぜひご活用を。

（注 1）3 齢以降の蚕がカイコノウジバエの卵が付いた桑を食べると、ウジが寄生して、繭から蛾ではなくカイコノウジバエの幼虫があらわれるという、蚕種製造者にとって手怖い病気の一つだった。

（注 2）蛾の出る「歩」（率）の良い桑という意味から「歩桑」と呼ばれた。

～ 編集後記 ～

【加藤 信秀；郷土教育推進研究委員会担当指導主事】

郷土教育推進研究委員の皆様は、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、グループの委員のメンバーで知恵を出し合い、子供たちが日野の素晴らしさを実感できる授業を実践しました。皆様の実践は、日野の教育活動をより充実させるものであります。これまで貴重なご指導・ご助言を賜りました先生方、研究にご尽力いただきました委員の皆様に感謝申し上げます。

【秋田 克己；郷土教育推進研究委員会副委員長、旭が丘小学校副校長】

厳しい状況の下、フィールドワークと4回の授業を実践したことに、委員の皆様の熱意を感じております。その中には永年積み重ねられた過去の実践を基に再構成した授業・保育が行われ、本研究の層の厚みを感じています。授業を通して子供たちが日野のよさに気づき、愛着をもつ体験をしたことは大切な宝を残したことになるでしょう。この実践資料が、市内の先生方に興味をもって教材研究を進め、子供に向き合うための材料として活用していただけることを願っております。

【中村 康成；郷土教育コーディネーター】

夏季研修会のフィールドワークは、密を避けるためにグループ行動で行うことにしました。事前のグループ協議では、限られた時間の中で、世話人の先生を中心にして研究課題やフィールドワークの訪問先をしっかりとまとめていました。グループワークにおけるこの真摯な努力が、委員の皆さんの主体的な学びを導いたのだと思いました。

2学期の研究授業では、子供に問いをもたせる工夫がありました。また、話し合っただけで考えを深めたり、郷土における自己の生き方を見つめたりするような場面が計画されていて、子供たちが生き生きと学びを深めていく姿がありました。各グループの研究のまとめを見ると、一人一人の委員が創意工夫して、多様な教科等で郷土教育を実践していました。これからの郷土教育に道を開いていただけたのではないかと思います。

コーディネーターとして、皆様が円滑に研究に取り組めるように努めてきましたが、不十分な点も多々あり、御迷惑をおかけいたしました。役員、顧問、委員の皆様、大変お世話になりました。ありがとうございました。

【尾形 斉；郷土教育推進研究委員会事務局、教育センター所員】

新型コロナウイルスが蔓延する中で本研究委員会の取り組みも2年目を終えようとしています。本研究会の目的は、子供たちに郷土への愛着を高め、地域と共に生きようとする姿勢を育成することです。そして、この姿勢はどんな状況下でも絶やしてはいけないとの先生方の思いの中で取り組んできました。昨年できなかった、研究授業や夏のフィールドワークも工夫をして実施し、より密度の濃い内容となりました。先生方の努力は、きっと将来、多くの「ひのっ子」の成長に繋がると思います。また、1課2館の方々のご協力や、ご指導いただきました顧問の先生方のご尽力に感謝申し上げますとともに、委員の先生方の子供達への思いや郷土教育に真摯に取り組む姿勢に心より感謝申し上げます。

裏表紙の写真

7月28日（水）夏季研修会
午前 日野宿本陣

7月28日（水）夏季研修会
午後 小杉顧問による講義

10月26日（火）研究授業
会場；滝合小学校

11月30日（火）研究授業
会場；平山小学校

郷土教育推進研究報告書

令和3年度（2021年度）

「郷土日野」指導事例

～第16集～

令和4年3月31日発行

日野市立教育センター
郷土教育推進研究委員会

